

埼玉アートシアター通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S



(財)埼玉県芸術文化振興財団

2006.7-8

4

夏休み 子供特集

いつまでも忘れない 好奇心いっぱいの夏休みにしよう!

近藤良平さん、伊藤千枝さんお勧めの絵本・童話から
子供たちのための夏休み特別プログラムのご紹介まで



蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目

作曲家
舞台音楽家

(財)埼玉県芸術文化振興財団
芸術監督・演出家

宮川彬良 × 蜷川幸雄



蜷川幸雄 (にながわゆきお)
埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も『近代能楽集』ニューヨーク公演、歌舞伎『NINAGAWA十二夜』、『王女メディア』、『天保十二年のシェイクスピア』など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。

公開対談シリーズ 第3回

NINAGAWA 千の目

蜷川幸雄 × 宮川彬良

(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家

作曲家・舞台音楽家

Yukio Ninagawa

『NINAGAWA千の目(まなざし)』、第3回のゲストは宮川彬良さん。作曲家であり舞台音楽家である宮川さんは、蜷川の舞台『身毒丸』『草迷宮』の音楽を担当。



Akira Miyagawa

特に生みの苦しみがあったという『身毒丸』の話を中心に、音楽と演劇の不思議で素敵な関係を、宮川さんのピアノ演奏も交え、語っていただいた。

わかりにくいことが贅沢であると知った蜷川との仕事

蜷川(以下N) 『NINAGAWA千の目(まなざし)』シリーズ、第3回のゲストは宮川彬良さんです。お忙しい中おいで頂き、非常に友情の厚い行為と喜んでます。

この劇場で音楽劇『身毒丸』、『草迷宮』の作品と一緒に仕事をしました。その才能は本当に見事で感動しました。それらも含めてこれからお話をしますが、宮川さんとお会いするのは何年かぶりです。

宮川(以下M) お招き頂きありがとうございます。

N 宮川彬良さんです。宮川さんと一緒に仕事をした『身毒丸』で、初めての時は緊張しましたが、宮川さんは演出を見ながら稽古場でどんどん作っていきます。宮川さんは夢中になって稽古場の片隅で一生懸命にピアノを弾いて、「このまま帰ると途切れるから」とか言って近くのホテルに泊まっていました。

『身毒丸』で一番苦労したことは何ですか？

M それまで僕は演劇における音楽の役割とは、わかりやすいというのが何より前提だと思い込んでいました。

それがあの寺山修司さんの本では、言葉が説明になった瞬間に死ぬ、面白くなるということがわかった。今までは説明をすればするほど面白くなるという方程式のはずだったのですが、自分の中でそれが崩壊して、全然これまで培ったいろいろな、それまでのお土産が使えなかったということです。

N 出だしのセリフが、「眼差しのおちゆく彼方ひらひらと、蝶になりゆく母の幻」これが一つのセリフというか短歌なのです。そういう芝居なので、当然言葉にメロディーを乗せることもすごく大変だったのです。

M そうですね。わかりやすいということが、つまらないこととそこでわかってしまったのです。これってステキでしょう。僕は、結果的に「わかりにくいという贅沢がある」ということを知ったのです。

N 僕は寺山さんと同世代でいながら、なんとなく寺山さんの芝居が好きではなかったのです。寺山さんの文学的な才能は好きで、演劇

が好きではなかったのです。だから、『身毒丸』の制作中は、鬱々としながらのセットの大まかなプランの打合せだけをして、フェスティバルに参加する下見のためにイスラエルに行きました。パレスチナにも行って、その現状を見的过程中で感じたのは、「寺山修司(のセットプランにして)はどうもちゃっちゃいな」と思って、ガザから東京へ「全てのプラン変更」とファックスを送りました。

そして、日本に帰ってきてアドリブで演出しました。自分のその時の混乱そのものが演出に現れていたり、宮川さんが作る曲に刺激されたり、そして藤圭子さんが歌ってくれたりして……。

M あれはありがたかったですね。あの時の蜷川さんのパワーというか、やはり感じました。「これは藤圭子に歌ってもらおう」といわれた時には、この人は何を言い出すのだろう、藤さんは引退しているのだし、OKしてくれる訳がないじゃないかと思いましたが、「面白そうだから、やりたい」とおっしゃってくれたそうです。

N 思い続けるとちゃんと通じるんですね。言うだけは言ってみるもんですね。

M あれは恐れ入りました。

N 日本の古い物語、説教節のバリエーションとしての寺山さんがお書きになった本を宮川さんがやる。宮川さんはミュージカルなどもお書きになっているが、そういう格闘技みたいなのを繋いでくれるのは、藤さんのしゃがれた声、前近代を引きずっているような歌声だと思ったのです。そうすると寺山修司さんと宮川さんの曲に僕が考えるノイズが入られるという思いがありました。声がしゃがれているというのが結構僕には大事だったのです。

何か弾けないですか。

演劇とは対比だ。蜷川の言葉に、“ナスの理論”を発見

M じゃあ、最初に本を見た時に、この曲だけは書いておいたのを……。～ピアノ演奏～



宮川彬良 (みやがわあきら)
1961年東京生まれ。81年東京芸術大学作曲科入学。劇団四季、東京ディズニーランド等のショー音楽を手がける。数々のミュージカルなどを作曲し高い評価を得ている自称・舞台音楽家。代表作に「身毒丸」(蜷川幸雄演出)「ハムレット」「ルビチ」など。一方、大阪フィル・ポップスコンサート、宝塚アンサンブル・ヘカなど、全国で演奏会を行っているほか、鮫島有美子、平原綾香など多くのアーティストとレコーディングセッションを行っている。96年「身毒丸」で読売演劇賞スタッフ賞受賞。同年「大阪フィル・ポップス」でABC国際音楽賞受賞。「マツケンサンバII」の作曲や、NHK教育テレビで放映中の『クインテット』(月曜から金曜の午後5時半から)で、お茶の間でも馴染みに。

N 人々がゆっくり歩いているのです。オープニングに使われます。

このような曲を聴きながらオープニングを考えるのです。そうするとここはゆっくり歩けばいいのだなあ。ではこの美しい曲に何をしようか。ああ、そうだグラインダーで火花を落とそう。そうするとこの美しさにちょっと違うイメージが。美しいが鉄をギョーと削っている4台の火花が橋の上からビーと落ちてくる。そうするとメロディの美しさに負けないかな。緩やかな速度で人が歩けばいい。よし小さい人を探そう。ではゲタを履こう。というように、イメージが音に触発されて逆の方に向けようとしたりして、いろいろなことが出てくるのです。

M 蜷川さんの中ではこれはとてもきれいだったんですね。僕はこれでもわりと音を濁している感じというか、シヨパンのようなきれいさではない感じだと思って作っていましたが、カセットテープをお聴かせした時に、「宮川くん、きみ才能があるんだ」と言われました。(笑い)

N 僕、そんなこと言ったの？

M なんか、それでフリーパスを頂いたような気持ちになりました。これでは好きに作っていいというお許しを頂いたような。調子に乗って、わかりやすさを目指してきれいな曲を作り続けたら、2曲目からいい顔をなさらなかった。

それで「こんなきれいな曲ばかりだと僕は天井から腐ったナスでも降らさなければならないよ」と言われました。そこで「そうか演劇は対比なのだ」と少しわかったのです。「ああそうか、これはきれいで、ビジュアルだと、めちゃくちゃ汚くしてくるのだから藤圭子さんのしゃがれた声というものを欲しているのだ」とわかりました。そ



僕は『身毒丸』以降、演出が変わった

ここで、「ではこういう曲はどうですか」と私が言った時の蜷川さんはとても嬉しそうでした。そのナスの理論は僕にとっては未だに忘れないです。

N 自分の性格からそれはすごくわかります。きっとそう言うと思います。

M ただそれだけだったら『身毒丸』の音楽は多少小ぶりに成功していたと思います。それが稽古初日に限って、巨匠がもう一人いらっしゃいました。それは誰かという主演の武田真治の事務所、ホリプロの堀威夫さんです。僕がナス理論で頭がいっぱいの時に、帰り際の出口の所で「宮川さん、一つ(ミュージカル『Cats』の)『メモリー』のような曲を作ってね」と、全く別な世界から言うのです。“ナスでメモリーで藤圭子かよ”みたいな、もう逃げ場があつた時はなくなりました。寺山さんが大きく立ちはだかっていて、これまでの所にも帰れないし、そこで、その二つのヒント「メモリーで、すごく汚い」ということのミックスしたのが僕の中ではある種のノスタルジーだったのです。

自分にとってのノスタルジー、ノスタルジックというのは悪いことだと思っていたが、それって、みんなに共通することで、メモリーで、しゃがれてて、腐ったナスにも対抗するようなおいしいエリアだったのです。つまり子守歌を作ろうと思い、後の十数曲を作ったのです。

～ピアノ演奏～

これ哀しいでしょう。

N 「お母さん!」というセリフが入ってくるんだよ。「お母さんもう一度僕を生んでください」とか。

M この曲、今でも大好きです。なんか泣けるでしょう。(拍手)

自分の中でそれが芸術でもあり、俗っぽくもあり、つまりきれいでいて汚くて、わかりやすくてわかりにくいというように全部が入っているノスタルジックという封印していたエリアがそこにあったのです。



『身毒丸』が、その後の蜷川にビジュアルを復権させた

N 僕は『身毒丸』以降、演出が変わったのです。なにをやってもいいのだ。そしてビジュアルにもっと凝ろうと思いました。一時それを放棄して、骨だらけの演出をしていた方が批評家に評判がいいのです。あれをやってから「僕はいいんだ。ちゃんとビジュアルを復権しよう」と思い、あれから変わって、それまではちっと途絶えていた仕事ができるようになりました。

M 『身毒丸』でも、家が出来ていくなつて。貴重な1時間半の中の

ノスタルジックという封印していたエリアがそこにあった

それに5分半ぐらい割いているんですものね。

N 家というのはお父さんがいて、お母さんがいて子供がいるから家であって、そのために亡くなったお母さんの代わりに、新しいお母さんを買ってくるわけです。そして家の形を作るわけです。お母さんを買って大通りを歩いて、ターンする。本では往来から次のシーンは座敷になるのです。道を歩いていて、そこから玄関が出てきて、中の廊下とか、仏壇の間とか、居間になって、ご飯を食べる台所になって、セットがどんどん出てきて、一軒の家が(舞台上に)できてくる。お母さんを買ったことによって精神的スタイルとしての家もできるが、物質的な構造的な家も出来上がっていくという演出になっています。これが結構冴えているのです。

M そういうのを自画自賛というのですよ。(笑い) これが出来た日を克明に覚えていますよ。とにかく最初のシーンが未完成だったかもしれないが、ここは何か音楽が入るでしょうと言われたのです。僕が用意してきた「トントン、タンタン」という歌舞伎の付け打ちみたいなリズムと蜷川さんの考えていた家の組み立てが「はい。用意。歩くよ」「エイ、歩く」「ドンドン、タンタン」となったら、そのまま5分間止まらないで今のシーンが出来たのです。あれはすごいセッションでした。

N 打合せナシでやっていました。「何々の間が出てくる」、「四畳半」「六畳」「板の間」とみんな大騒ぎして……。

M あれが蜷川組というのですね。みんなが右往左往していて。

N 本当にあれは至福の時間で、良い作品でした。

宮川さん、話は違いますがNHKでお人形さんを使ったりしてやっている番組をたまにみますが、あれはどういう内的必然性ですか。

M あれは声を掛けていただきました。『クインテット』という番組なんです、音楽家の僕が見て楽しい番組を作ってくれとプロデューサーがおっしゃったのです。「音楽の向こうに何か大事なことが隠されている、この番組はそれを写すのだ」ということをテレビ局の方から言ってきたのです。これは嬉しかったです。

N これは面白いです。ちょっと感動的で、僕は大好きです。実はライブでそういうことをやるような日がきたらここでやってくれないかなと思っています。あれこそ最高のエンターテインメントであり、子供たちがあれをみたらよい体験だと思います。大人が見ても面白いです。

M あれを教育という所に逆に僕は一石投じているつもりなのです。エンターテインメントにも一石投じたいし、教育もです。子どもに媚びるのではなくて、こちらが熱中することが教育ではないかということです。

N これは宮川さんにすごく合っていると思います。宮川さんは子どもと大人が混ざっているようなそんな所があります。

M それに蜷川さんが合うのね。蜷川さんとても坊やでもありで。

2006.6.3 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホールにて



『身毒丸』の映像も流れ、家が組み立てられるシーンなどを、音楽とともに鑑賞。



話題作を続々上演

コンテンポラリーダンスの最前線

彩の国さいたま芸術劇場が、開館当初から最も力を入れていたプログラムのひとつが、コンテンポラリーダンスの紹介だ。日本のカンパニー公演のほか、欧米の注目作品を多く招聘してきた。今年後半から来年にかけても話題の海外作品が続く。なにが注目すべき点か、同劇場のプロデューサー、佐藤まいみがその見所と魅力を語る。



©Lois Greenfield



Hip-hopでアスリート モーションVSストップモーション オーストラリアン・ダンス・シアター 『HELD』

【日時】9月30日(土) 開演 19:00
10月1日(日) 開演 16:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演目】『HELD』
【構成・演出・振付】ゲアリー・スチュワート
【出演】オーストラリアン・ダンス・シアター
ロイス・グリーンフィールド(写真家)
【チケット(税込)】一般 S席 5,000円 A席 3,000円
学生A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 2,700円



©Chris Herzfeld

若者たちの生態の、その刹那を捉えた オーストラリアン・ダンス・シアター

アスリートのような引き締まった身体で、跳躍し、回転し、格闘技のように激しく踊るダンサーたち。この秋に初来日公演が予定されている、オーストラリアン・ダンス・シアターは、なにかかも新鮮で、従来のコンテンポラリーダンスの既成概念を打ち砕く。「オーストラリアの荒削りな野性味に、パンクテイストが加わって、迫力ある作品になっています」(佐藤まいみプロデューサー。以下同)舞台上では、女性フォトグラファー、ロイス・グリーンフィールドが目の前で踊るダンサーたちの一瞬を鋭く捉え、それがそのままスクリーンに連続投影される。映像に交錯する、激しく踊り続ける生身の肉体。「原始のエネルギーと現代の繊細さが閃光のように出合っているような、言葉にできない空気感があります。これはオーストラリア独自のものの。ほかのどこから出てきにくい質感ですね」ヒップホップやパンク、ロックなどストリート感覚にあふれ、若者たちの生態の、その刹那を確かに捉えた作品は、コンテンポラリーダンスの新しい可能性を切り拓いている。

民族のアイデンティティを昇華させた アクラム+シディ

来年の1月に公演が予定されている、アクラム・カーンとシディ・ラルビ・シェルカウイによる『ゼロ度 zero degrees』も、とても興味深い作品だ。バングラデシュ系イギリス人、アクラム・カーンと、モロッコ

系ベルギー人、シディ・ラルビ・シェルカウイ。共にソロのダンサーであり振付家である二人のコラボレーションで生まれた作品は、アクラムがバングラデシュからインドへ向かう旅の途中で実際に巻き込まれた事件をもとにしている。「二人はオリジンな文化から引き離されているわけです。周囲に違和感を感じているのだと思いますが、バングラデシュやモロッコにも自分の居場所はないかもしれない。そんな二人が二人なりの表現で、文化の違いを乗り越えたコミュニケーションの可能性を作品にしています」シンプルな衣装の二人は、時になめらかな手話のような動きを互いになぞり、時に対立し、また寄りそう。シンクロする心と心そのままに、美しく繊細な緊張感に包まれる作品は、やがて静かなラストを迎える。「静かですけれど、力強く引き込まれる舞台です。様々な葛藤を作品にすることで、自分たちを浄化し、それによって観る側も浄化されるのだと思います」どうしようもないジレンマや苛立ち、怒りを昇華した作品に貫かれているのは、一遍の詩のような美しさだ。

どの瞬間も絵画のように美しい ヤン・ファール作品

2001年のアヴィニョン演劇祭で衝撃的な初演をした、ヤン・ファールの『わたしは血 JE SUIS SANG』も、来年2月に上演を控える。「この作品では、主人公は血なのです。最後に『私は血だ。誰も私を傷つけることはできない』のナレーションで終わります」コンセプトは明快だ。今日、人間は一見現代的に見えとしても、



©Tristram Kenton

最注目ダンサー／振付家による奇跡のデュエット アクラム・カーン+シディ・ラルビ・シェルカウイ 『ゼロ度 zero degrees』

【日時】2007年1月12日(金) 開演 19:30／13日(土) 開演 16:00／14日(日) 開演 16:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演目】『ゼロ度 zero degrees』
【振付・演出・出演】アクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ
【音楽】ニッティン・サウニー 【彫刻】アントニー・ゴームリー
【チケット(税込)】一般 S席 5,000円 A席 3,000円 学生A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 2,700円
【発売日】10月初旬(予定)

本質は中世の頃から変わっていない。原初の本能のままに、欲望にまみれ、恥辱とともにある。その象徴として描かれるのが“血”だ。暗い舞台に蠢く人々。甲冑を身に着けたもの、司祭のような服を着たもの、中には純白のウェディングドレスを身に纏うものも……。その中で唯一、鮮烈な色彩を放つ“血”は、媚薬のごとく観る者を惹きつけてやまない。どのシーンをとっても、絵画あるいは彫刻を思わせる完成された美は、美術家としてのヤン・ファールの才能が舞台の上に結実したものだ。「彼は昔から血に興味があったと言います。誰でも子供の頃は、神秘的なものに惹かれたり、残酷な部分ってあるものですよね。けれど、大人になるとどんどん隠されていく。だからこそ、ヤンは作品でそれを探求したのだと思います」

それは決して人間の暗部への探求だけではない。見るものの解釈にもよるのだが、希望や融和ともとれる結末が用意されている。「『ラストシーンでは、すべての血は混じり合うのだ』というヤンの話を聞いていると、そこに彼が未来への希望を託しているようで、作品の奥行きを深さを思い知らされています」退廃や破壊の後、人々は自らの中にあるはずの善に一縷の希望を見出す。そうして観ていくと、この作品は現代社会の行く末を見つめる、ヤン・ファールの祈りに思えてくる。「アート作品は自分たちが生きている社会と切り離して観ることはできないですからね」コンテンポラリーダンスは、社会を映し出す鏡、と言えるかもしれない。そこに観る者は呼応し、共鳴し、新鮮な驚きを感じるのだ。



アヴィニョン演劇祭を震撼させた衝撃作 ヤン・ファール テキスト・舞台美術・振付 ～中世妖精物語～ 『わたしは血 JE SUIS SANG』

【日時】2007年2月16日(金) 開演 19:30／17日(土) 開演 16:00／18日(日) 開演 16:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演目】『わたしは血 JE SUIS SANG』～中世妖精物語～
【テキスト・舞台美術・振付】ヤン・ファール 【出演】俳優、ダンサー、ミュージシャン 23名
【チケット(税込)】一般 S席 7,000円 A席 5,000円 学生A席 3,000円
メンバーズ S席 6,300円 A席 4,500円
【発売日】11月中旬(予定)

夏休み 子供特集

いつまでも忘れない 子供のための推薦図書・プログラム

好奇心いっぱいの夏休みにしよう！

いよいよ、子供たち待望の夏休みがもうすぐ始まる。この長い休みをどう有効に使うか、お母さんたちも頭が痛いところだが、今年はぜひ、子供たちの想像力を育む童話や昔話に触れてみてはいかがだろう。

そこで、この10月に彩の国さいたま芸術劇場で公演が予定されている、「日本昔ばなしのダンス」を振り付けする近藤良平さんと伊藤千枝さんのお二人に、お勧めの図書を選んでもらった。ユニークで楽しい作風で知られる二人だけに、子供心にフィットするセレクションは納得の内容。併せて、夏休み期間中に行われる子供たちのための様々なプログラムも紹介。親子そろって、楽しい思い出をつくろう。

近藤良平

昔話には、視覚、匂い、擬音がいっぱいある。だから、自然に絵が浮かんでくるんです。

「絵本がかなり好きですね。子供の時から、視覚に訴えてくるものが好きなんですよ。オオカミが出てきたりする話で、絵がいいのがね」

近藤良平さんは、0歳から12歳まで父親の仕事の関係で南米に住んでいた。その頃、一番好きな絵本だったのが、『はなのすきなうし』。闘牛が主人公というのが、いかにも南米らしいところ。

「メキシコの話なんですけどね。花が好きで心優しい牛なんです。それが獰猛な牛と勘違いされて、闘牛場に連れられて行くという話なんです。でも全然闘わないから、最後は牧場に戻って幸せに暮らすんですけど」

当時、近藤さんが読んでいたのはスペイン語版だったが、日本に住むようになってから、改めて日本語版を入手。それは今も大切に手元にあるという。「まあ、バイブルみたいなものなんです。本人さえ気づいていなくても、世の中にはいろいろなやつがいる。それでいいんだ、みたいな、ね」

現在、3歳の娘がいる近藤さん。娘にこの話を読み聞かせてあげる日も遠くなさそうだ。

「今も、いろんな話をつくって、絵も描いたりして、娘に聞かせてるんですよ。そうやって、自分で絵本をつくるのもいいなあ」

「日本昔ばなしのダンス」のために、近藤さんは最近になって、改めて日本の昔話をたくさん読んだ。

「視覚、匂い、擬音……文の中にいっぱいあるじゃないですか。だから、絵本みたいに絵がいっぱいなくても、自然と絵が見えてくるんだよね。だからすごく面白い。それに比べて、今のお話ってそれほどでもない。教訓につながってたりするけれど、決して頭ごなしに『それはいけない』とはやらない。チラッと毒も入ってたりするし。そういうところがホッとするし、大人も十分楽しめる」

そんな昔話に刺激を受け、どんどん創作意欲が沸いている様子。「だってねえ、頭に柿の木が生えてきちゃう昔話もあるんですよ。そんなあり得ないことが、当たり前のように話になっちゃう。ほんと、侮れないですよ。ある意味、昔話って、前衛ですよ」

学生服が集団で踊りまくり、人形劇や映像を使って、今までダンスを観なかった観客を魅了してきたコンドルズ。それとは、また違った世界観が展開されそうだ。

ワープ感があったり、変幻自在な話が好き。それは昔から変わらないなあ。

どこかほんわかとした、ファンタジックな作風で人気の珍しいキノコ舞踊団。そのカンパニーを率いる伊藤千枝さんだけに、絵本や童話にまつわる話はたくさんありそうだ。

「両親に聞くと、絵本とかたくさん持っていたようですよ。それで、お気に入りの本を大きい紙袋に入れて、ひきずりながら持ち歩いてたんだそうです。寝るときもいつもそばに置いて」

一人っ子だったので、小さい頃は絵本が大切な友達だった。ひっばると動く仕掛けのあるディズニーの絵本や、いわさきちひろの『絵のない絵本』などが大のお気に入り。

「特にね、『絵のない絵本』は絵が大好きで。ストーリーは覚えていなくても、絵は覚えていて、絵本を開くと、今でも子供の頃、読んでいた雰囲気まで思いつくんです。

幼稚園の頃に買ってもらったのは、もう切れちゃってないページもあるので、大人になってから、もう一冊買ったほどです」

昔から、自分でも絵を描きながらお話をつくったり、自分の声が聞こえるのが面白くて、ラジカセに即興でミュージカルを吹き込んだりしていたという伊藤さん。

「舞台としては、今のこの場所より、ワープ感があるほうが好きですね。宇宙の話とか。変幻自在なバーバパパや、打ち出の小槌で小さくなるエピソードなど、変化のある話が好き。それは今も変わりませんね。日常が基本なんだけど、そこからちょっとずれるというか。ドラえもんや育っちゃったからかな」

そう言われれば、今回、「日本昔ばなしのダンス」の演目として選んだ「へっこきよめ」も、まさに日常の中の爆発。普通のお嫁さんながら、暴風並みのオナラをするものだから、騒動になるというお話だ。

「もう、タイトルだけでぐっと惹き付けられちゃいましたよ。『へっ、へっこき?』って」

おならをできるだけリアルに表現するには、どうしたらよいのか。早くも頭を悩ませる日々だ。

「最近は、珍しいキノコ舞踊団の昔からの友人やファンも、子供連れが多くなって、通常の公演でも子供は多いんです。子供が本番中に大きな声で『あれ、なにー?』とか叫んでも、全然いやじゃない。子供がいるから劇場に行けない、っていう固定概念を崩して行きたいですね」

日本昔ばなしにダンスで挑戦（親子で鑑賞して楽しみ、そして考えるプログラム）

「日本昔ばなしのダンス」

近藤良平／伊藤千枝

【日時】 10月7日（土） 開演 14:00／17:00

8日（日） 開演 14:00／17:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

【演目】 『ねずみのすもう』

【振付】 近藤良平

【出演】 鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎

【演目】 『へっこきよめ』

【振付】 伊藤千枝

【出演】 山田郷美、篠崎芽美

日本の昔ばなしをダンスで綴るシリーズ第1弾。「コンドルズ」を率いる振付家／ダンサーの近藤良平、「珍しいキノコ舞踊団」の振付家／ダンサーの伊藤千枝という個性では群を抜く2人が、それぞれ、お母さんも子供も知っている日本昔話にダンスで取り組むという注目作。親子が一緒に楽しみ、見た作品について親子で話し合う機会にしませんか。

【技術監督／音響】 山海隆弘（財団法人埼玉県芸術文化振興財団）

【照明】 岩品武顕（財団法人埼玉県芸術文化振興財団）

【舞台監督】 平井 徹（財団法人埼玉県芸術文化振興財団）

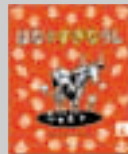
全席自由（税込）

大人（高校生以上） 2,000円 子供（3才以上中学生以下） 1,000円

【発売日】 メンバーズ 7月22日（土） 一般 7月29日（土）

近藤良平（こんどうりょうへい）
ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。男性のみのダンスカンパニー「コンドルズ」主宰。人形劇や生演奏を交え、学ランを着て踊る集団は、海外でも話題に。子供たちにはNHK教育「からだであそぼ」の振付でお馴染み。最近、バンドとしてもデビュー。

近藤良平さんのお勧め図書



近藤良平さんが「バイブル」とするメキシコの童話。牧歌的な絵柄と平和なお話で、世界中の子供たちに親しまれている。大人にも心休まるひとときを与えてくれる。



ロシアに古くから伝わるお話。ねずみやかえる、きつねが、ちいさなおうちに一緒に住み始めるが……。飛び出す絵本仕立てで3歳くらいから楽しめる。



自分の足りない部分を求め、「自分のかけら」を探しに放浪する物語。最後に自分にぴったりのかけらに出会うが……。70～80年代の若者のバイブル的存在。



ドイツの寄宿学校を舞台に、少年たちの日常に起こる些細な出来事や騒動を生き生きと描いた傑作。2003年には映画化もされ、日本でもスマッシュ・ヒットを記録した。



その昔、荒地であった南仏・プロヴァンスに、一粒一粒種を植え、木が生い茂る楽園にした名もなき老人を描いたベストセラー。F・バックの繊細な絵も秀逸。

『はなのすきなうし』

マンロー・リー他著 岩波こどもの本 672円

『ちいさなおうち』

ミハイロ・ブラトフ再話 新読書社 1,150円

『ぼくを探しに』

シェル・シルヴァスタイン著 講談社 1,575円

『飛ぶ教室』

エーリヒ・ケストナー著 講談社 青い鳥文庫 704円

『木を植えた男』

ジャン・ジオノ著 あすなろ書房 1,680円

伊藤千枝さんのお勧め図書



海賊と宝探しを競争する冒険譚。「実は最近読んだのだけど、情景が丹念に描かれていて、映画『バイレーツ・オブ・カリビアン』にも負けなくらい」



永遠の子供、ピーター・パンが誘う夢と冒険の物語。何度もアニメや映画になっている名作。「空を飛んだり、妖精が出てきたり、とにかく楽しい」



誰もが一度は手にする童話作家、アンデルセンの代表作。「とにかく、この絵が好きで好きで。今読むと悲しい話が多いのですが、それも絵と合っている」



小さな王子の奇想天外な物語は、フランス児童文学傑作。「絵がいいし、冒険で、帽子かと思ったら、ヘビの中にゾウが入っていた!というところも好き」



アニメにもなり、世界中の子供たちに愛されているキャラクター。「バーバパパたちは何にでも変身できる。その変幻自在がなんといっても魅力」

『星の王子さま』

サンテグジュペリ著 岩波書店 1,050円

『おばけのバーバパパ』

アネット＝ゾンサン 偕成社 1,050円

キラキラした子供たちの目に出会えるプログラム

夏休みの子供たちのために用意されている様々なプログラムに参加して、子供たちが舞台や芸術に興味を持つきっかけにしてみませんか？

クラシック音楽の楽しさに触れる

PROGRAMME

A

「熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ！」

クラシック音楽は敷居が高いと思っている人こそ、この夏がチャンス。「夏休みオーケストラ！」は、家族全員で楽しむ「クラシック音楽入門編」です。音楽ものしり博士の朝岡聡さんと、日本を代表する指揮者の飯森範親さんを進行役に、演奏されるのは誰もが知っている名曲ばかり。とても親しみやすいコンサートです。子供たちが指揮者になったり、リコーダーや歌で共演したり、学校では体験できないスペシャル企画も満載。「クラシック音楽は楽しい！」を家族全員で実感してください！



Pick Up

～ヴァイオリンの福田悠一郎さんよりメッセージが届きました。～

今回、演奏するサラサーテの《カルメン幻想曲》は、ビゼーのオペラ《カルメン》をもとに作られた曲で、有名なメロディーが次々出てきます。この物語のもつ激しさやせつなさをうたうように表現したいと思います。オーケストラの方達や聴いて下さる皆様と一緒にこの曲の楽しさが味わえるように、頑張ります。



【日時】8月5日(土) 開演 15:00

【曲目】モーツァルト:歌劇《フィガロの結婚》序曲
小室昌広:ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
サラサーテ:カルメン幻想曲 ラヴェル:ボレロ

【子供参加企画】♪みんなでオーケストラ！
●指揮者に挑戦！(ビゼー:歌劇《カルメン》より前奏曲)
●リコーダーを吹いてみよう&みんなで歌おう《ビリーヴ》

子供たちがオーケストラに参加できるコーナーです。事前申し込みは不要です。リコーダー以外の楽器での参加も大歓迎です！当日は楽器を持参してください。

【出演】朝岡聡(ナビゲーター)、飯森範親(指揮)、東京交響楽団(管弦楽)、福田悠一郎(ヴァイオリン)

【チケット(税込)】

一般 S席 大人 3,000円 高校生 2,000円
こども 1,500円 親子セット(大人1枚+こども1枚) 4,000円
A席 大人 2,500円 高校生 1,500円
こども 1,000円 親子セット(大人1枚+こども1枚) 3,000円

メンバーズ S席 大人2,700円

★3歳未満のお子さまのご入場はご遠慮ください(託児サービス有り)。

オルガンの魅力に迫る

PROGRAMME

B

「光の庭プロムナード・コンサート オルガン・ミニ・コンサート」

光のふりそぐ彩の国さいたま芸術劇場内“情報プラザ”で開催している、オルガン・ミニ・コンサートはいつも大好評の企画。8月は「夏休み子供企画」と銘打ってのスペシャル・プログラムです。午後2時からの演奏会で、この演奏会シリーズの構成者としてもおなじみの大塚直哉さんが、ソプラノの鈴木美登里さんを迎えておくるのは、「音楽のかくれんぼ!？」という楽しいテーマ。同じメロディーが追いかけてこしあったり、どこかに隠れていたり……。みんなで一緒に、隠されたメロディーを探してみませんか？

さらにコンサートのあとは、彩の国さいたま芸術劇場のポジティブ・オルガンを造ったガルニエさんによる、パイプオルガンの秘密を解き明かすワークショップも特別開催！普段はなかなか見ることのないオルガンのケースの中は、いったいどうなっているのでしょうか？作り手ならではの視点から、オルガンはどのように造られていてどのように音を出しているのか、仕組みについてわかりやすくお話します。どうぞお楽しみに!!



オルガンの中味に、子供たちがばかりか、大人たちも興味津々。



ここで初めてオルガンに触れるお子さんも。写真はいずれも前回のプログラムから。

監修:鈴木雅明 構成:大塚直哉

【日時】8月19日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ

【曲目】～夏休み子供企画「音楽のかくれんぼ!？」～

J.S.バッハ:《インヴェンション》より／文部省唱歌:浜辺の歌 ほか
★終演後、マルク・ガルニエ・オルグ・ジャパン社のオルガン・ビルダー、マテュー・ガルニエによるワークショップ開催(16:00終了予定)。

【出演】大塚直哉(オルガンとおはなし) 鈴木美登里(ソプラノ)

【料金】無料

親子で劇場の裏側を体験できる

PROGRAMME

C

「劇場体験ツアー」

昨年、大好評だった「劇場冒険ツアー」が、装いも新たに「劇場体験ツアー」となって今年も開催されることに。このツアーは、単なる施設見学会ではないところが人気の秘密。普段は目にすることができない様々な舞台の仕掛けに、子供たちと一緒に触れ、参加する、文字通り“劇場の舞台裏”を楽しみながら体験するツアーです。昨年のアンケートからも、その楽しさが伝わってきます。

「舞台がどうなっているか、どういう仕掛けがあるか、くわしくわかって、楽しかった」(小6)

「たのしかったから、またきてみたいとおもいます」(小2)

「バックステージが見学できる(子供に見せてあげられる)と思い申し込みましたが、予想を上回る面白さで、子供の付き添いで来たことを忘れました」(保護者)

お芝居や演奏に欠かせない、照明や音響はどうつくられるのか、夏休みの自由研究のテーマにもピッタリの充実したツアー。夏休み最後の思い出づくりに、ぜひお子さまと一緒にご参加ください。



普段はめったに上がない舞台上に立って、ちょっとおすましの子供たち。



音響機器にも実際に触れてみた。写真はいずれも昨年の「劇場冒険ツアー」から。

【日時】

8月23日(水) 開演 11:00／開演 15:00

8月24日(木) 開演 11:00／開演 15:00

8月25日(金) 開演 11:00／開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【対象】小学生とその保護者

*原則として未就学児童のご参加はご遠慮いただいています。(有料託児サービスあり)。

*小学3年生未満のお子さまには必ず保護者様がご同伴ください。

*親子で一緒にお楽しみいただくツアーです。高学年のお子さまの場合でも、できるだけ保護者の方が一緒に参加ください。

【定員】各回先着40名(定員になり次第、締切らせていただきます)。

【料金】500円(子ども・大人共通、税込) ※当日精算のみ

※ご好評につき、完売いたしました。

本場のロシアバレエを学ぶ

PROGRAMME

D

「熊谷会館 クラシックバレエ・セミナー」

最近、ブームのクラシックバレエを、より本格的に子供たちが触れられる企画は、今年、初めての試み。講師は、元ボリショイ劇場のプリンス・パル・ダンサー、ニコライ・フョードロフ氏！本場のロシアバレエを学べる貴重な機会は、絶対に見逃せない。

【日時】

8月29日(火)、30日(水)

各日共 11:30～13:00 初級クラス

13:30～15:00 中級クラス

15:30～17:00 上級クラス

※2日間の講習のため、1日のみの受講はできません。

【クラス編成】

初級 経験2～4年 小学1年生以上

中級 経験5～6年 小学4年生以上

上級 経験7年以上 中学1年生以上

【定員】各クラス20人

【会場】熊谷会館 ホール舞台上

【講師】ニコライ・フョードロフ

【受講料】各8,000円(2日間2クラス分)

【申込方法】お申し込みは、下記のものを封書でご送付ください。

1.応募用紙

財団ホームページ <http://www.saf.or.jp>からダウンロードした応募用紙、または、A4のレポート用紙に顔写真を添付し、①氏名、②生年月日、③年齢、④性別、⑤住所、⑥電話番号、⑦クラシック・バレエの経験年数、⑧希望クラス、⑨所属バレエ団・教室をご記入ください。

2.返信用封筒

80円切手を貼り、郵便番号、住所氏名を記入したもの。

※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。財団ホームページ等でもお知らせしている関係上、すでに定員になっている場合は、ご了承ください。

【応募・お問い合わせ先】

(財)埼玉県芸術文化振興財団「熊谷会館 クラシックバレエ・セミナー」係

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1

☎ 048-858-5506(舞踊担当) <http://www.saf.or.jp>

ニコライ・フョードロフ

モスクワ国立バレエ学校でE.セルギエフスカヤ、P.ベストフォ、E.ヴァルレーキン、M.リエバに師事する。1970年にはボリショイ劇場に迎えられ、アナニアシビリなど当代の花形スターとパートナーを組み、1990年まで同劇場で活躍。その間世界各地の公演に出演し、その人気を世界的なものにした。現在は東京とモスクワを往復し、バレエ教師として、またバレエプロデューサーとしても活躍。ロシア共和国功労芸術家。

「熊谷会館 クラシックバレエ・セミナー」 一般公開のご案内

上記の、8月30日(水) 15:30～17:00の上級クラスを、一般公開します。バレエの経験がない方でも見学いただけますので、多くの方のご応募をお待ちしております。

【申込方法】

往復ハガキの往信面の裏に、以下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください(応募多数の場合は、抽選を行います)。

※返信面の表には、必ずご自分のご住所、お名前をご記入ください。

●記入事項

①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号
⑤希望人数(1枚のハガキで2名様まで)

●応募締切 8月11日(金) 当日消印有効

【応募・お問い合わせ先】上記と同様。

※財団法人埼玉県芸術文化振興財団は、地域とともに舞台芸術の芽を育む、教育普及事業をしています。

『タイタス・アンドロニカス』イギリス公演報告

取材・文：鴨澤章子

今日の公演の演出家であったことが僕は嬉しい

2006年6月16日。ロイヤル・シェイクスピア・シアターは、興奮に包まれていた。彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督である蜷川幸雄演出のプロダクション『タイタス・アンドロニカス』の、イギリスでの初日公演が行われたのだ。観客や出演者たちの生の声を交え、素晴らしい一夜をレポートする。

「これは、衰退する帝国を描いた、輝きを放つ哀調を帯びたプロダクションだ」（ガーディアン紙）
「スタンディングオベーションを受けて当然の作品だ」（ストラトフォード・ヘラルド紙）
「ニナガワによって蘇ったこの作品は、現代においても、残酷で危険な世界が脈々と続いていることを、私たちに知らしめる」（ザ・タイムズ紙）



初日を前に、公演の行われた劇場前で、蜷川幸雄と出演者ら。

『タイタス・アンドロニカス』のイギリス公演初日が終わったとき、誰もがその成功を確信したに違いない。熱心な拍手、観客一人一人が自らの意志を示すスタンディングオベーション……そして、劇場中を包み込むなんとも言えない興奮と熱気。作り手と受け手の気持ちが一体となって、初めて作品が完成する瞬間に立ち会った喜びで、それは生み出されたものだ。

今回の公演は、シェイクスピアを中心に上演する劇団として活動するロイヤル・シェイクスピア・カンパニー（以下RSC）が、今年1年間をかけて、シェイクスピアの全作品を上演する、「ザ・コンプリート・ワークス」に招聘されたものだ。2004年に彩の国さいたま芸術劇場で初演した『タイタス・アンドロニカス』を、今年4月に同劇場で再演、地方公演を経てこの日を迎えたもので、RSCの上演を始め、欧米の作品が並ぶ中で唯一上演される日本の作品だ。

かつて、『リア王』や『ペリクリーズ』を始めイギリスでの公演を多く経験してきている蜷川にとっても、RSCのこのプログラムの中での上演に対しては、特別な思い入れがあったようだ。日本的な演出に頼らず、日本語による上演（英語の字幕付き）、シェイクスピア作品の中でも上演されることの少ない演目という、難しい条件下での挑戦だった。

「talk・talk・talk」第1回 麻実れい×小栗旬×蜷川幸雄

イギリス公演に先駆けること、2ヶ月前。

彩の国さいたま芸術劇場で幕を開けた『タイタス・アンドロニカス』のアフタートークに、演出と出演の三者が登場。満員の観客を前に、『タイタス〜』制作秘話から、イギリス公演にかける意気込みまでを語った。

この芝居は大変なエネルギーが必要

小栗（以下O） 今回、『タイタス〜』では、初演をやられている方たちの中に再演組として入っていくという所からのスタートだったので、僕を含め初めての人たちにとっては、そのエネルギーは大変なものだったと思います。最初の一週間ぐらいは本当に寝られなかったし、今までで一番エネルギーを使いました。

麻実（以下A） 私たちは再演だったけれど、出演者が半分近く変わり、動きも変わったということで、再演を引きずらないで、初演と思い、みんなで一つの物を作り上げるという気持ちでした。

蜷川さんに「（この演技で）大丈夫ですか」と何度も伺いに行きましたが、蜷川さんに「大丈夫だよ。また気が付いたことがあったら言ってあげるからもう大丈夫だよ」と言ってもらっても、まだ聞いていました。だから同じだよな。

O そうですね。蜷川さんの芝居に出るということはすごいエネルギーを使うということですね。

蜷川（以下N） 本当にそうなんだ。

O でも、こういう場を用意してくれた蜷川先生に非常に感謝しております。

N うるせえよ。（笑い）

A 蜷川さんの稽古場は非常に厳しいのです。噂通りでは全然ないですが、いい意味で厳しくて、とっても愛情があって、とても笑いが多く稽古場です。一度参加した者たちはみんな「また蜷川さんの緊張ある稽古場に参加したい」と思うのです。

N そうだいいですね。噂だけ聞いて、物をぶつけるから絶対イヤだという人もいるのですね。最近はずつけないよね。（笑い）

最初から、ほぼ連日本番のような稽古をしているから大変でしたな。

A 集合日から世界が出来上がっているから、役者はまず緊張からです。



N そうだ、即、立ち入り稽古でしたね。

A 即でしたな。本読みナシでしたな。

N 普通は再演でも新しい出演者がいるから一回は本を読んでその人がどういう演技をするのか、どういう声を出すのかということを探るのですが、今回、それは無駄なことだと思って顔合わせでみんなを紹介し、そして「じゃあ、立とう」と言っただけですが、それはみんながショックを起こすような出来事だったわけです。すごい緊張が走って、そして稽古のレベルが上がっていくわけです。そういうことがフェアかどうかは別として、ある緊張感でやるとだいたい10日は稽古をした分ぐらいからスタートになるが、それはとってもよかったと思います。

でも、大変だったでしょう。

O はい、初日はずっと心の中で、「俺のセリフまで来るな。来るな」と思っていました。でも本当にこのような枠組みの中で初日から稽古ができ、そして自由にやらせて頂けるのですが、「お前らが今まで勉強してきたものであったり、培ってきたものをまずここで見せてみる」という所から始まって、自分たちにいろいろなことをどんどん考える状況を作ってくれる稽古なので、やはりすごくやり甲斐があるし、こういう稽古はそんなになと思います。世間で「怖い蜷川さん」と言われていますが、そんなことはないですよな。

現代に通じる問題提起とメッセージ

N この芝居はすごく残酷な芝居なのです。だから、なだらかに始まっているとこの戯曲の世界に入っていけなくなってしまうのです。

何年か前に、イスラエルとパレスチナで芝居をやると思ってイスラエルに行きました。パレスチナのガザの町では、荒れ狂っている若者たちがトラックを乗り回しながら

初日の観客たちの反応は、舞台が始まったばかりの段階では、素早いものではなかった。物語自体が広く知られたものでないため、字幕を追うのに忙しかったためもあるだろう。しかし、復讐の図式が明らかになるにつれ、観客の集中力がどんどん高まるのが手に取るようにわかった。盛大な拍手が起こった一幕の終わりを経て、二幕には凄惨な話の中でありながら、笑いも起き、フィナーレまで舞台も客席も緊張感は途切れなかった。そして割れるような拍手。観客の感動はもちろん、演じた側にもストレートに伝わった。

力強く、けれど人としての弱さも併せ持つ複雑なタイタス像を演じきった吉田鋼太郎は言う。

「前半は無我夢中でしたが、途中からお客さんの手ごたえを感じました。最後は本当のスタンディングオベーションをいただくことができて、夢がかないました」

カーテンコールで、多くの人からスタンディングで演技を賛美された、エアロン役の小栗旬も、「もう鳥肌が立ちました。とにかく楽しかったです」と嬉しさを隠さない。

シェイクスピア作品の見上手が多い観客は的確な言葉で、この作品を評してくれた。

「演劇の長い伝統のある日本が、シェイクスピア作品に、新しい解釈を与えてくれた」

「ビジュアルの表現が素晴らしい」

その夜、蜷川は関係各者を前に静かに、けれど感動を添えてこう言った。

「今日の公演の演出家であったことが僕は嬉しい」

すでに前日の舞台稽古の時から、確かな手ごたえを感じていたという蜷川に対し、この夜を経験した誰もが、今日の観客であったことを感謝しただろう。



らイスラエルに対し抵抗運動に対するアジテーションをしていて、そこでは一っと舞っているのはビニールと砂埃なのです。そしてまたイスラエルに戻ってきたがそこはガザと違ってお金があるから緑が繁っていて、優雅なのです。

そういう中にいると復讐の連鎖は現代も全く変わらないのではないかと思います。そういうことが頭の中にありながら芝居をやっていると、決して遠い昔の話ではなくてほぼ現代シーンの真っ直中にいるような芝居だと思うわけです。

そう考えると芝居のスタートは決してなだらかでなく激しいものだということが自分の中にあり、劇の冒頭の所の凱旋で帰ってくることでか、捕虜を虐めるのも、全くテレビ報道などで見る現代の戦争、あるいはそれに付随したドキュメンタリーとほぼ同じことをやっているのです。

私はこの芝居で、そういう世界の中を現代シーンに追認するという形だけでなく、そこから希望というものを発見できないだろうかと考えました。そして芝居の最後で少年が叫び声をあげる、その一点に掛けました。新しい解釈はそこにあります。それが現代に対する我々全員の希望であり、少年が黒人の子供を抱きしめて、世界に怒りの叫び声をあげる。そのことをきちっと提示することがこの芝居の責任と思いました。

イギリスで上演する怖さと意義

N 我々がやってきた仕事が、埼玉からストラトフォード・アポン・エイボンまで行き、そのシェイクスピアの「ザ・コンプリート・ワークス」の中に置かれることによって、我々自身の普遍性を問うことができるのではないのでしょうか。我々がここでやっている仕事は世界の演劇シーンにおいて本当に説得力と普遍性があるのかということを同時に問う作業でもあると考えていました。

A 本当にイギリスにこれを持っていけるということは私たちにとってもいい意味で大変緊張します。やはり日本のプロダクション、選ばれた日本の役者がどれだけのパワーをイギリスの方にお見せできるかは大変興味があるよね。

O はい。

N やっぱ緊張する？ イギリスでやると。

A 緊張しますよね。

O もう、緊張しますね。



イギリスの主要各紙でも、劇評が掲載された（左・『The Guardian』紙 右上・『The TIMES』紙）

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第16・17弾公演決定

速報

大好評シリーズの次回作がついに決定。ローマ史を題材とした悲劇『コリオレイナス』とオールメール・シリーズ第3弾の喜劇『恋の骨折り損』です。蜷川演出のシェイクスピアの悲・喜劇、両方の魅力を味わうチャンス。出演者も強力キャストを予定しています。どうぞご期待ください。

第16弾『コリオレイナス』

2007年1月23日（火）～2月8日（木）〈予定〉

【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

第17弾『恋の骨折り損』

2007年3月16日（金）～3月31日（土）〈予定〉

【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

【チケット発売】『コリオレイナス』10月頃予定

『恋の骨折り損』11月頃予定

（財団メンバーズは、別途8月送付の案内にてプレオーダー実施予定。財団メンバーズ特典等は、本誌P23をご参照ください）

A でも、あれだけの稽古を積ませて頂いたので、多分落ちついた気持ちでイギリスに行けるのではないかと私は思います。

N 拍手も何もなかったら怖いね。

O 怖いですね。

A すごいことですよな。シェイクスピア劇をシェイクスピア生誕の地で演じるということはかなりものがありますよ。

N 歌舞伎座へ外国の劇団が来て、「勧進帳」をやるようなものです。イヤだね。

O でも、昨日イギリス公演のプロデューサーのセルマ・ホルト氏は、「ザ・コンプリート・ワークス」に蜷川が呼ばれなかったら、「ハムレット」にハムレットが出ないようなもんだ。と僕らに言って帰って行きましたよ。（拍手） だからすごいことになっていると思います。

A 私たちも、「ああ、蜷川さんの演出だから絶対怖くないぞ」と昨日改めて思いました。なかなかイギリスでも、世界的にも上演されにくい作品だということでそういう意味ではいいメッセージを届けられるのではないかと思います。

N 何ヶ月か後にイギリスに行き芝居をやるということは、すごく恵まれて大事なことになるので、我々が現代の世界に対してどういう考えを持っているかを合わせて観て頂きたいと思っています。

2006.4.30 彩の国さいたま芸術劇場 大ホールにて

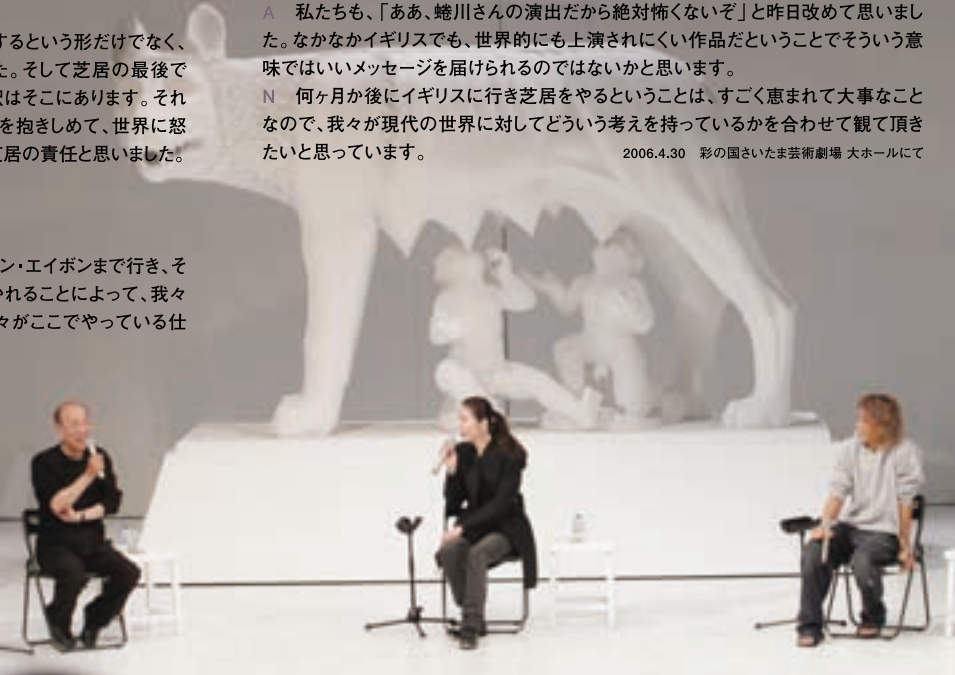


photo:幸田 森 構成:鴨澤章子

埼玉会館ファミリー・クラシック

～仲道郁代 ピアノものがたり～

Ikuyo Nakamichi

日本を代表するピアニストのひとり、仲道郁代さんが、ピアノをめぐる思い出話を交えながら、ピアノの名曲の世界にご案内するコンサートが行われます。「小さな頃から素敵な音楽を聴いて欲しい」という願いをこめて、この演奏会は特別に3歳から入場できる特別な企画になっています。

仲道郁代さんは、彩の国さいたま芸術劇場での、4年全12回にわたるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲のレクチャー・コンサートでもお馴染みのピアニスト。彼女の活動は、演奏だけにとどまらず、執筆や演奏会の企画までと多彩ですが、なかでも「音楽の世界で心ゆくまで遊んでいただきたい」、という願いをこめた「仲道郁代の音楽学校」(2003年度からは「仲道郁代の『ゴメン! 遊ばせクラシック』」としてヴァージョン・アップ)や、自身の子育て経験のなかから「クラシック音楽と幸せな出会いをしてもらいたい」と始めた「星のどうぶつたち」、「光のこどもたち」は、全国各地で公演が行われ、たくさんの子供たちと音楽との出会いの場として幅広い支持を集めています。

そんな仲道さんが、この9月、埼玉会館でのファミリー・コンサートのためにオリジナルのプログラムで贈るのが、「仲道郁代 ピアノものがたり」。今やピアニストとして世界中で活躍している仲道さんですが、子供の頃は音楽とはどんなふうに関わっていたのでしょうか? 「初めてピアノにふれた時の感動、毎晩聴いていたレコードの話、ピアノ漬けだった学生時代、感動したコンサート……。いつも一緒だった『ピアノ』との思い出があります。それらを通して、ピアノの魅力をお伝えし、曲の感じ方やとらえかたの手引きとなるようなコンサートにしたいと思っています」(仲道さん)

ピアノを習っていれば必ずといってもよいほどに良く弾かれるあの曲この曲、ピアノは習ったことがなくてもどこかで耳にしたことのあるピアノの名曲を通し、彼女の視点からピアノや音楽の素晴らしさが伝わってきます。

「現在ピアノを習っていらっしゃるお子さんたちから、大人の方たちにも、ピアノの魅力を知っていただきたい。もちろん、音楽大好きな方々にも、新たな発見があるようなコンサートを考えています」(仲道さん)

家族や友人と一緒に、楽しいお話と素敵な音楽の時間を過ごしてみてはいかがでしょうか。

仲道 郁代 (なかみち いくよ)

古典からロマン派までの幅広いレパートリーで、独奏者・オーケストラのソリストとして国内外で活躍。05年には、英国チャールズ皇太子夫妻ご臨席のもと、イギリス室内オーケストラ主催の「結婚祝祭コンサート」に出演し絶賛された。2003年からは、地域社会の活性化と音楽文化の発展を目指し、大阪音楽大学特任教授、財団法人地域創造理事としても活動中。デビュー20周年にあたる、2006/2007シーズンは、全国各地で記念リサイタルを予定。
http://www.ikuyo-nakamichi.com



©谷古宇正彦



これまでも子供たちに音楽の楽しさを伝える数々のコンサートを行って来ている仲道さん。しらかわホール「クラシックはじめの一步」公演より。

埼玉会館ファミリー・クラシック

～仲道郁代 ピアノものがたり～

【日時】 9月18日(月・祝) 開演 14:00

【会場】 埼玉会館 大ホール

【曲目】 ドビュッシー:《ベルガマスク組曲》より <月の光>
モーツァルト:ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 「トルコ行進曲付」
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 「月光」
ショパン:幻想即興曲 嬰ハ短調
ショパン:夜想曲第20番 「レント・コン・グラシ・エスプレシオーネ」
ショパン:ポロネーズ第6番 変イ長調 「英雄」
シューマン(リスト編曲):《ミルテの花》より <献呈>変イ長調
リスト:メフィスト・ワルツ第1番

【出演】 仲道郁代(ピアノ)

【チケット(税込)】一般 大人3,000円 こども(3歳以上高校生以下) 2,000円
★親子セット(大人1枚+こども1枚) 4,500円
メンバーズ 大人2,700円

幸田浩子 Hiroko Kouda
ソプラノ・リサイタル

11月に彩の国さいたま芸術劇場で公演予定の幸田浩子さん。同劇場には初登場ですが、国内外で活躍される注目の若手実力派ソプラノ歌手です。リサイタルを4ヶ月後に控えた幸田さんに、一問一答でお話を伺ってみました。



——今回のプログラムの聴きどころをお話ください。

幸田:前半には、大好きで長年歌い込んできたヘンデルの名曲の数々を予定しています。

そして今回、ピアノを弾いてくださる野平一郎さんの素晴らしい音色を私も堪能したいと思ひまして、リストの作品を選びました。後半のジプシーソングの第4曲目《亡き母が教えたまいし歌》は、どなたもきっと一度は耳にされたことがあるはずです。最後の《カリヨン》は、舞台や映画音楽も手掛けるイタリア人作曲家が、私のために書いてくださった曲で、その美しいメロディーと「世界は泳いでいくための大きな大洋で、大地は両手を広げて我々を待っていてくれる。さあ、私たちは再び始めよう!」という歌詞の世界に浸っていただければ、と思っております。

——幸田さんの健康法はありますか?

幸田:幸いなことにとっても健康なので、特に気をつけていませんが、よく笑い、よく食べ、よく歌うことでしょうか。

——演奏前に特別に食べるものはありますか?

幸田:オペラ界には、「本番前日は牛肉(レアー、赤み)」という定説があるのですが、最近、「いやいや、のどに直接効くのはコーラゲンだ!」という説を伺ひまして、さっそく、演奏会前日にフカヒレスープを飲んでみました。

——効果のほどは?

幸田:あの……おいしかったですけど……効き目はよくわかりません。(笑い)

——お客様にメッセージを。

幸田:歌を歌い始めて、いったい何年になるのでしょうか。日本はもちろん、ローマやウィーンのオペラ座、ドイツの劇場に大聖堂、イタリアの片田舎の教会や野外劇場などなど、本当にたくさんの土地で歌ってきましたが、どこの場所にも、人々の祈りと音楽があることを心から感じています。

お客様とご一緒するこの場所が、「祈りの叶う場所」ではなくとも、「いつか祈りは叶うのではないか」と、信じられる空間であって欲しい……。そして、お客様と共鳴し、愛情を喚起する……そんな歌い手でありたいと願ひながら舞台に立っています。

今回、彩の国さいたま芸術劇場で歌わせて頂くのは初めてです。どんな素敵な出会いと発見があるのか、この「一期一会」を心から楽しみにしています。

——今後益々のご活躍を期待しています。



幸田 浩子 (こうだひろこ) ソプラノ

東京芸術大学を首席卒業。同大学院、オペラ研修所修了後渡伊。数々の国際コンクールに入賞後、ヨーロッパの大歌劇場に次々とデビュー。シュトゥットガルツ国立劇場、カターニア・ベッリーニ大劇場、ローマ歌劇場等で活躍。2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。日本では新国立劇場、二期会等で主役級を演じる他、宮本亜門演出ミュージカル《キャンディード》に出演するなど多彩な活動を展開。最近ではNHK「世界遺産～青きドナウの旅」やTBS「ブロードキャスター」出演も話題に。華と実力を兼ね備え、今最も注目を集めているソプラノ歌手である。現在ボローニヤ在住。二期会会員



Nodaira Ichirou, Piano

野平一郎 (のだいらいちろう) ピアノ

東京藝術大学、同大学院修士課程を修了。1978年よりフランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとしては内外の主要オーケストラにソリストとして出演。名手と数多く共演し、室内楽奏者としても活躍。2005年8月、初めてのオペラ作品「マドルガーダ」がドイツのシュレスヴィッヒ・ホルシュタイン音楽祭のオープニングで演奏、絶賛を博す。

幸田浩子ソプラノ・リサイタル

【日時】 11月3日(金・祝) 開演 16:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】 ヘンデル:《アン女王の誕生日の為のオード》より "永遠の源よ"
ヘンデル:オラトリオ《サムソン》より "輝かしいセラフィム"
ヘンデル:歌劇《セルセ》より "なつかしい木陰よ"
ヘンデル:歌劇《リナルド》より "私を泣かせてください"
リスト:ペトラルカの3つのソネット S270
サン＝サーンス:アヴェ・マリア
マスネ:アヴェ・マリア
ドヴォルジャーク:ジプシーの歌 op.55
ドンギア:新しい色の祝祭にて ～カリヨン～

【出演】 幸田浩子(ソプラノ)／野平一郎(ピアノ)

【チケット(税込)】一般 3,000円 学生席 1,000円
メンバーズ 2,700円

【発売日】メンバーズ 7月29日(土) 一般 8月5日(土)



ピアニスト100

音楽監督:中村絃子

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

100人を聴く10年、ついにラストシーズンへ。

95/100 アンティ・シーララ (フィンランド) Antti Siirala

主要コンクールを制覇 国際舞台に躍り出た若手実力派



1979年ヘルシンキ生まれ。7歳でオーケストラと初共演し、数多くの国内音楽コンクールで入賞。近年、シベリウス・アカデミーでマッティ・ラエカリオ、イヴァリ・イルヤの各氏に師事。97年第10回ウーン・ベートーヴェン国際コンクールで最年少第1位、2003年にはAXAダブリン国際コンクール、リーズ国際コンクールで優勝。ソリストとして著名な指揮者と共演し、多くの音楽祭にも出演。またイギリス室内管弦楽団、ウーン室内管弦楽団、フィンランド放送交響楽団などに客演。

【日時】9月10日(日) 開演 15:00
【曲目】～オール・ベートーヴェン・プログラム～
ウラニツキーのバレエ《森の娘》のロシア舞曲による12の変奏曲 イ長調 WoO71
6つのバガテル op.126
ピアノ・ソナタ 第5番 ハ短調 op.10-1、ピアノ・ソナタ 第6番 ヘ長調 op.10-2
ピアノ・ソナタ 第7番 ニ長調 op.10-3 ★中村絃子音楽監督によるトーク付き
【チケット(税込)】一般 S席 3,000円 A席 2,000円 学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 2,700円

96/100 シプリアン・カツァリス (フランス) Cyprien Katsaris

超絶技巧と独特の音楽性 個性溢れる伝説のピアニスト



1951年マルセイユ生まれ。4歳からピアノを学ぶ。パリ・コンセルヴァトワールを首席で卒業。70年チャイコフスキー国際、72年エリーザベト国際各コンクール入賞、74年シフラ国際コンクール優勝。音楽院在学中から天才の誉れ高く、66年シャンゼリゼ劇場の公式デビュー以来、稀代のテクニシャンとして世界的に活躍。2000年フランス政府叙勲、01年パリ市パーミル・メダル受賞。ユネスコ平和アーティスト。

【日時】10月21日(土) 開演 16:00
【曲目】シュベルト:《3つのピアノ小品》D.946より 第1番 変ホ短調、第2番 変ホ長調
シュベルト=リスト:歌曲 セレナーデ、水車屋と小川、アヴェ・マリア
ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-35
L.モーツァルト=キャメロン:おもちゃの交響曲
リスト=カツァリス:《2つのチャールダーシュ》より 第2曲くチャールダーシュ・オブスティネ>
ショパン:ワルツ イ短調 op.34-2、練習曲 ハ短調 op.25-12、
夜想曲 変ホ長調 op.9-2、幻想即興曲 嬰ハ短調 op.66、
子守歌 変ニ長調 op.57
J.S.バッハ=カツァリス:トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
【チケット(税込)】一般 S席 5,000円 A席 4,000円 学生 S席 3,000円 A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円

97/100 キム・デジン (韓国) Kim Daejin

知的な演奏 指導者としても名高い韓国の重鎮



1985年第6回ロベール・カサドシュ(現クリーヴラント)国際ピアノコンクール優勝。86年ニューヨーク・デビュー。87年より国際的ソリストとして活躍。ジュリアード音楽院で学士・修士・博士号を修得。現在韓国国立芸術大学教授として国際コンクールで入賞者を数多く輩出。また国際コンクール審査員としても活躍。2002年韓国音楽協会より「ミュージシャン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、韓国東亜日報より「韓国で最も有名なピアニスト」の称号を受ける。

【日時】11月19日(日) 開演 15:00
【曲目】ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-48
プロコフィエフ:ピアノ・ソナタ 第6番 イ長調 op.82「戦争ソナタ」
ショパン:バラード 第1番ト短調 op.23、バラード 第2番 ヘ長調 op.38
バラード 第3番 変イ長調 op.47、バラード 第4番 ヘ短調 op.52
【チケット(税込)】一般 S席 3,000円 A席 2,000円 学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 2,700円

Coming Schedule チケット発売日

No.98～No.99 メンバーズ 9月9日(土) 一般 9月16日(土)

98/100 アルカディ・ヴォロドス (ロシア) Arcadi Volodos
驚異的・超人的なピアニズム 世界を席巻するヴィルトゥオーゾ
12月9日(土) 開演 16:00
◆曲目:シュベルト:楽興の時 op.94 D.780
シュベルト:ピアノ・ソナタ 第11番 ヘ短調 D.625
リスト:《巡礼の年 第1年 スイス》よりクオーベルマンの谷>
《巡礼の年 第2年 イタリア》より<婚礼>
《伝説》より<アッジジの聖フランチェスコ:鳥への説教>
《詩的で宗教的な調べ》より<葬送>
★中村絃子音楽監督によるトーク付き
◆チケット(税込) 一般 S席 5,000円 A席 4,000円
学生 S席 3,000円 A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円

99/100 レイフ・オヴェ・アンズネス (ノルウェー) Leif Ove Andsnes
音楽への直截な情熱 傑出した存在感をもつ北欧の俊英
2007年2月10日(土) 開演 16:00
◆曲目:シベリウス:キュリッケー3つの抒情的小品 op.41
グリーグ:ノルウェー民謡による変奏曲形式のバラードト短調 op.24
シェーンベルク:6つの小さなピアノ曲 op.19
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第32番 ハ短調 op.111
★中村絃子音楽監督によるトーク付き
◆チケット(税込) 一般 S席 4,000円 A席 3,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

映画監督 是枝裕和 × 作曲家 笠松泰洋 × 演出家 蜷川幸雄



是枝裕和



笠松泰洋

【日時】7月23日(日) 13:30～
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
【定員】150名
※メンバーズの方以外の募集期間は終了しております。

一昨年のカンヌ国際映画祭を賑わした『誰も知らない』や現在公開中の『花よりもなほ』の監督で知られる是枝裕和さんと、『タイタス・アンドロニカス』『グリークス』など数多くの蜷川作品の音楽を提供する作曲家、笠松泰洋さんを迎えての公開トークです。

～PICK UPでは紹介しきれなかった、公演情報～

CULTURE 9.9～

源氏語り54帖 罪の輪廻

若菜 下 二 六条院にとり残された女三宮に蹴鞠の日の垣間見以来想いを燃やし続けてきた柏木が接近し、思いを遂げた。その結果、女三宮は妊娠し、懐妊を不思議に思った光源氏は柏木の文を発見し、真相を知る。しかし、世間体を恐れて公表せず、ひそかに悩んでいた。密事発覚を知った女三宮も、柏木も怖れのあまり病に沈み、紫上も危篤状態を繰り返し、光源氏が行おうとした朱雀院五十賀は、十二月も押し詰まってようやく行われた。

柏木 柏木は光源氏に説かれたことで、病の床に沈み、命さえあやうくなった。女三宮は年が明けてすぐ男子を産んだが、光源氏の冷たさに将来を悲観して出家する。これを知った柏木は一層絶望し、親友夕霧に光源氏への謝罪と妻女二宮の行く末を託して亡くなった。光源氏は薫五十日の宴に、薫を抱きながら、その面差しに亡き柏木の面影を認め、息子を見ずに亡くなっていった柏木を哀悼し、自ら犯した昔の密通の罪を償おうとする。



◆第32回 若菜 下 ②(わかなげ ②) 9月9日(土)
第33回 柏木(かしわぎ) 10月1日(日) 各回とも開演 14:00(開場 13:30)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説/フェリス女学院大学教授)
◆チケット(税込):全席指定 各回 2,500円

CINEMA 9.9 彩の国シネマスタジオ

「パリ・ルーブル美術館の秘密」

美術品以外の撮影を許可しなかったルーブル美術館の舞台裏に初めてクルーが足を踏み入れた。所蔵品数約35万点。館内全てを見て廻るのにゆうに1週間にかかるという世界最大の美術館。その巨大な美術館に生命の息吹を与えるのは素朴で魅力的な1,200名の専門家たち。作品の修復、巨大絵画の展示、作品をめぐる学芸員達の論争等々。愛と機知溢れる視点の感動ドキュメンタリー。監督は「僕の好きな先生」のニコラ・フィリベール。



◆9月9日(土) 10:00/13:00/16:00/19:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:ニコラ・フィリベール(1990年 フランス 85分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般 1,000円 小中高生800円 当日 各200円増
◆発売日:7月22日(土)

CINEMA 9.29 彩の国シネマスタジオ

「砂の器」

迷宮入りと思われた蒲田操車場殺人事件。捜査を担当する警視庁刑事・今西と西蒲田署刑事・吉村は、「東北弁のカメダ」という言葉を手がかりに東奔西走、犯人に肉薄した。そこで二人が見たものは...。1974年に公開され、社会派サスペンスの最高傑作と評された『砂の器』。あの演奏会場のシーンは埼玉会館で撮影されました。彩の国シネマスタジオ第20回を記念しての登場です。撮影監督の川又昂氏によるアフタートークも必聴です。



◆9月29日(金) 10:30/14:00/18:30 ※14:00上映回終了後、ゲストークあり ◆埼玉会館 小ホール
◆監督:野村芳太郎 原作:松本清張 脚本:橋本忍、山田洋次 音楽監督:芥川也寸志
◆出演:丹波哲郎、加藤剛、森田健作、島田陽子、緒方拳 ほか(1974年松竹 デジタルリマスター版 143分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般 1,000円 小中高生800円 当日 各200円増
◆発売日:7月22日(土)

PLAY 10.21 彩の国さいたま寄席 四季彩亭

三遊亭小遊三

落語ファンの待望、半年ぶりとなる彩の国さいたま寄席に登場するのは、笑点の大喜利でもおなじみの三遊亭小遊三師匠です。21歳で三代目 三遊亭遊三師匠に入門。昭和58年3月、真打昇進。山梨生まれの江戸前男。長屋物など軽くて勢いのいい滑稽話が得意ネタで、咳阿の切れの良さは現役ナンバーワンとも言われる師匠の高座から、どんな噺が飛び出すか、えうご期待。



◆10月21日(土) 開演 16:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール ◆三遊亭小遊三、三遊亭遊馬 ほか
◆チケット(税込):一般 3,000円 メンバーズ 2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円
◆発売日:メンバーズ 7月22日(土) 一般 7月29日(土)

CINEMA 10.29 彩の国シネマスタジオ

長編オペラ映画「魔笛」

溢れる才能に神も嫉妬したと言われる天才モーツァルト。そのモーツァルトが最後に書いたオペラであり、彼の音楽の集大成といわれる名作。古代エジプトを舞台に、魔法の笛と心をつつ数々のアリアに導かれながら、主人公たちは不思議なメルヘンの世界へと迷い込んでいく。天才モーツァルトが生前最も愛したオペラと言われ、時代を超えて世界中のファンに愛され続けてきたオペラの宝石。この映画を観た後は、きっとモーツァルトが好きになる...



◆10月29日(日) 11:00/15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆作曲:W.A.モーツァルト 監督:イングマル・ベルイマン 指揮:エリック・エリクソン
歌手:タミーノ ヨーゼフ・ケストリンガー(テノール)/バミーナ イルマ・ウツリラ(ソプラノ)
パパゲーノ ホーカン・ハーゲゴード(バリトン)/夜の女王 ビルギット・ノールディン(ソプラノ)
1975年製作/スウェーデン映画/2時間15分/スウェーデン語版(日本語字幕)
◆チケット(税込):全席自由 前売 2,300円 当日 2,500円 メンバーズ 2,000円 団体(6名様以上) 2,000円
◆発売中

CINEMA 11.11 彩の国シネマスタジオ

「博士の愛した数式」

「ぼくの記憶は80分しかもたない...」 不慮の交通事故により80分しか記憶の持たない天才数学博士、そのもとで働きはじめた家政婦。やがて、幼いころから母親と二人っきりで暮らしている10歳の息子も博士のもとへ通うようになる。博士は息子をルート(√)と呼んだ。「どんな数字でも嫌がらずに自分の中にかくまってやる。実に寛大な記号、ルートだよ。」数式に秘められた美しい言葉の意味。深く静かな感動が心に広がる現代の名作。



©「博士の愛した数式」製作委員会

◆11月11日(土) 10:00/12:45/16:00/18:45 ※12:45上映回終了後、ゲストークあり
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール ◆監督:小泉堯史 原作:小川洋子 音楽:加古隆
◆出演:寺尾聰、深津絵里、齋藤隆成、吉岡秀隆、浅丘ルリ子ほか(2005年 アズミック・エース 117分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般 1,000円 小中高生800円 当日 各200円増
◆発売日:8月5日(土)

MUSIC 12.3

「小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演」

彩の国さいたま芸術劇場での2月のリサイタルや、埼玉会館での5月のモスクワ放送交響楽団との共演が記憶に新しい小山実稚恵さん。12月には、当劇場では4年ぶりに、ヴァイオリンの堀米ゆう子さんと、チェロの堤剛さんとともに登場します。“華麗なる音の響演”ともいうべき、夢のような組み合わせでのピアノ・トリオ。しかも、ベートーヴェンとチャイコフスキーの名曲中の名曲によるプログラムです。どうぞお聴き逃しなく!



◆12月3日(日) 開演 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆小山実稚恵(ピアノ) 堤剛(チェロ) 堀米ゆう子(ヴァイオリン)
◆曲目:ベートーヴェン ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 op.97「大公」
チャイコフスキー ピアノ三重奏曲 イ短調 op.50「偉大な芸術家の思い出に」
◆チケット(税込):一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円
◆発売日:メンバーズ 9月30日(土) 一般 10月7日(土)

MUSIC 12.16

バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

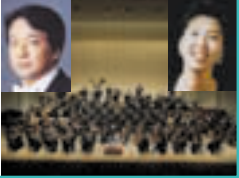
彩の国さいたま芸術劇場でも数々の名演で知られるバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)。ピリオド奏法(作曲家が生きた時代の様式にのっとった演奏法)の演奏団体として日本が世界に誇るBCJが、初めてモーツァルト作品を取り上げることも注目を集めます。モーツァルト生誕250周年の2006年、オール・モーツァルト・プログラムに幕を開けた彩の国さいたま芸術劇場音楽公演を締めくくるに相応しいこの公演、日本の音楽界のなかでもモーツァルト・イヤーの白眉といっても過言ではないでしょう。



◆12月16日(土) 開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:モーツァルト:証聖者の荘嚴な晩課「ヴェスベレ」ハ長調 K.339
モーツァルト:レクイエム ニ短調 K.626
◆出演:鈴木雅明(指揮)、森 麻季(ソプラノ)、マリアンネ・ベアーテ・キーラント(アルト)、アンドレアス・ヴェラー(テノール)、ドミニク・ヴェルナー(バス)、
バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱と管弦楽)
◆チケット(税込):一般 S席 8,000円 A席 7,000円 学生席 2,000円
メンバーズ S席 7,200円 A席 6,300円
◆発売日:メンバーズ 9月2日(土) 一般 9月9日(土)

MUSIC

N響 ～N響の端正、流麗、華麗な響きを聴く～
◆7月17日(月・祝) 開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:モーツァルト:ディヴェルティメント ニ長調 K.136／ハイドン:チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 op.101 Hob.VIb-2
メンデルスゾーン:交響曲 第4番 イ長調 op.90「イタリア」
◆出演:沼尻竜典(指揮)、向山佳絵子(チェロ)、NHK交響楽団(管弦楽)
◆チケット(税込):一般 S席6,000円 A席5,000円 学生A席2,000円 **メンバーズ** S席5,400円 A席4,500円



MUSIC

熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド!
◆8月5日(土) 開演 15:00 ◆埼玉県熊谷会館
◆出演:朝岡聡(ナビゲーター)、飯森範親(指揮)、東京交響楽団(管弦楽)、福田悠一郎(ヴァイオリン)
◆曲目:モーツァルト:歌劇《フィガロの結婚》序曲／小室昌広:ディズニーのメロディーによる管弦楽入門／サラサーテ:カルメン幻想曲／ラヴェル:ボレロ
●指揮者に挑戦!：ビゼー:歌劇《カルメン》より前奏曲 ●オーケストラといっしょに「ビリーヴ」を演奏しよう! (リコーダーや歌で参加してください)
◆チケット(税込):一般 S席大人3,000円 高校生2,000円 こども1,500円 親子セット(大人1枚+こども1枚)4,000円
A席大人2,500円 高校生1,500円 こども1,000円 親子セット(大人1枚+こども1枚)3,000円
メンバーズ S席2,700円 *3才未満のお子さまは入場できません。



MUSIC

パリ管弦楽団ブラス・クインテット Quintette de Cuivre de l'Orchestre de Paris
◆9月3日(日) 開演 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆出演:フレデリック・メラルディ(トランペット)、ブルーノ・トンバ(トランペット)、アンドレ・カザレ(ホルン)、ギヨーム・コテ＝デュム＝ラン(トロンボーン)、ステファン・ラベリ(チューバ)
◆曲目:ジェルヴェーズ:ルネサンスのフランス舞曲集／ドビュッシー:亜麻色の髪の乙女、小さな黒人／フォーレ:パヴァーヌ
ドルリュエ:金管五重奏曲「ステンドグラス」／オッフェンバック:フレンチ・カン・カン／ビゼー:《カルメン》第1組曲
フレンチ:ジャンソン～ミッシェル・ルグラン、シャルルト・レネの作品から～
◆チケット(税込):一般 S席4,000円 A席3,000円 学生席1,000円 **メンバーズ** S席 3,600円 A席2,700円



CULTURE

源氏語り54帖 罪の輪廻
◆第32回／若菜 下 ②(わかな げ ②) 9月9日(土) 第33回／柏木(かしわざ) 10月1日(日) 各回とも14:00開演(13:30開場)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説／フェリス女学院大学教授)
◆チケット(税込):全席指定 一般 各回 2,500円



MUSIC

「ピアニスト100」
No.94 北村 朋幹 Tomoki Kitamura(日本)
シリーズ最年少! 審査員を驚愕させた豊かな感性
◆7月23日(日) 15:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:J.S.バッハ:イギリス組曲 第3番ト短調 BWV808／モーツァルト:ピアノ・ソナタ 第13番 変ロ長調 K.333
メンデルスゾーン:幻想曲 嬰ヘ短調 op.28「スコットランド風ソナタ」／スクリャービン:幻想曲 口短調 op.28／ベルク:ピアノ・ソナタ op.1
リスト:ハンガリー狂詩曲 第10番 ホ長調「前奏曲」／シューベルト:ピアノ・ソナタ 第14番 イ短調 op.143 D.784
シューマン:ウィーンの謝肉祭の道化芝居 op.26「幻想的情景」
◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 **メンバーズ** S席2,700円



No.95 アンティ・シーララ Antti Siirala(フィンランド)
主要コンクールを制覇 国際舞台に躍り出た若手実力派
◆9月10日(日) 開演 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:～オール・ベートーヴェン・プログラム～ ヴラニツキーのバレエ《森の娘》のロシア舞曲による12の変奏曲 イ長調 WoO71
6つのバガテル op.126／ピアノ・ソナタ 第5番 ハ短調 op.10-1／ピアノ・ソナタ 第6番 ヘ長調 op.10-2
ピアノ・ソナタ 第7番 ニ長調 op.10-3 ★中村紘子音楽監督によるトーク付き
◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 **メンバーズ** S席2,700円



No.96 シプリアン・カツァリス Cyprien Katsaris(フランス)
超絶技巧と独特の音楽性 個性溢れる伝説のピアニスト
◆10月21日(土) 開演 16:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:シューベルト:《3つのピアノ小品》D.946より 第1番 変ホ短調、第2番 変ホ長調
シューベルト=リスト:歌曲 セレナーデ、水車屋と小川、アヴェ・マリア／ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-35
L.モーツァルト=キャメロン:おもちゃの交響曲／リスト=カツァリス:《2つのチャールダーシュ》より 第2曲<チャールダーシュ・オブスティネ>
ショパン:ワルツ イ短調 op.34-2／練習曲 ハ短調 op.25-12／夜想曲 変ホ長調 op.9-2／幻想即興曲 嬰ハ短調 op.66／子守歌 変ニ長調 op.57
J.S.バッハ=カツァリス:トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
◆チケット(税込):一般 S席5,000円 A席4,000円 学生 S席3,000円 A席2,000円 **メンバーズ** S席4,500円 A席3,600円



No.97 キム・デジン Kim Daejin(韓国)
知的な演奏 指導者としても名高い韓国の重鎮
◆11月19日(日) 開演 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:ハイドン:ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-48
プロコフィエフ:ピアノ・ソナタ 第6番 イ長調 op.82「戦争ソナタ」
ショパン:バラード 第1番ト短調 op.23／バラード 第2番 ヘ長調 op.38／バラード 第3番 変イ長調 op.47／バラード 第4番 ヘ短調 op.52
◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生 S席2,000円 A席1,000円 **メンバーズ** S席2,700円



チケットの購入方法について

窓口 販売

各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

窓口営業時間

彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く)

埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く)

熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)

電話 予約&販売

チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。

※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っておりません。

チケットセンター営業時間

財団チケットセンター

048-858-5511 10:00～19:00(休館日を除く)

インターネット販売

ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

インターネット営業時間

メンバーズ優先予約は初日の10時より、一般発売も初日10時より受付開始し、公演前日の19時に発売は終了いたします。

チケット代の支払い方法

■窓口 現金、クレジットカード

■電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込

■インターネット クレジットカードのみ

・コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。

・お支払いいただく代金は、チケット代金+セキュリティパック代(400円)になります。

・各館で、電話予約済みのチケットをご精算、お引き取りいただけます。

・当日券のご精算にもクレジットカードがご利用いただけます。

■メンバーズは口座引落になります。

セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて

●セット券・連続券は、原則として前売りのみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。

●学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。

●各種チケット割引サービスは併用できません。

ご注意及びお願い事項

●チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただく場合がございます。チケット発売初日の電話予約は1度のお電話で、1公演のみに制限させていただきます。また、チケット発売初日はお席のご案内はいたしておりません。あらかじめご了承ください。

●チケットご予約後のキャンセル・変更・再発行は一切行っておりません。

●チケット紛失の際は、チケットセンター(電話:048-858-5511)にお問い合わせください。

『サポーター会員』入会のご案内

財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、設立以来10年間、事業活動を通じて県民の皆さまをはじめとして舞台芸術を愛する多くの方々に優れた作品を数多くご提供してまいりました。一方、自ら舞台芸術を制作される県民の皆さまに対しても、日々の稽古の場、練習の場として、またその成果の発表の場として様々な応援をさせていただいております。彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、埼玉会館、熊谷会館の企画・運営につきましては、主として埼玉県から大きな支援を受けておりますが、さらに充実した活動を行うためには、多くの法人・篤志家の方々の財政面でのご協力を必要といたしております。埼玉県の芸術・文化活動を推進してゆくうえで、県民の皆さまの暖かいご支援を賜りたく、2005年4月から『サポーター会員制度』を導入いたしました。すでに、多くの県内企業の方々にご賛同いただき、ご入会いただいております。

■年会費について

1. 特別サポーター会員 年会費(1口) 300万円(消費税込)
2. サポーター会員 年会費(1口) 10万円(消費税込)

*ご希望により何口でもお申し込みいただけます。有効期限は、入会月から1年間となります。

■『サポーター会員』の特典

●特別サポーター

(1) 劇場サポーターボードへのロゴ・社名掲出

(2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、

ホームページへの社名掲出

(3) アーティストとのレセプション・パーティへのご招待

(4) 御社主催コンサート・ワークショップなどの主催(出演料別途)

(5) 財団主催公演のご招待(全公演2席程度)

(6) 自主事業公演チケットの20%割引販売

(7) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

●サポーター(法人・個人)

(1) 劇場サポーターボードへの社名掲出

(2) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、

ホームページへの社名掲出

(3) 財団主催公演のご招待(1口10万円につき3万円程度の特定公演にご招待)

(4) 自主事業公演チケットの20%割引販売

(5) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

■サポート企業一覧(50音順 5月末現在)

アサヒ印刷(株)／浦和ロイヤルバインズホテル

FM NACK5／(株)エフテック

(株)オメダム／金井大道具(株)／(株)亀屋

カヤバ システム マシナリー(株)

クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)

(有)香山壽夫建築研究所／(有)嘉賀設計工務

埼玉新聞社／埼玉トヨタ自動車(株)／埼玉りそな銀行

JA/JA埼玉県信連／(株)十万石 ぶくさや／(株)スズセン

ソシエテ ジェネラル アセットマネジメント(株)

(株)タムロン／東京ガス(株)

東京電力(株)埼玉支店／東芝ライテック(株)

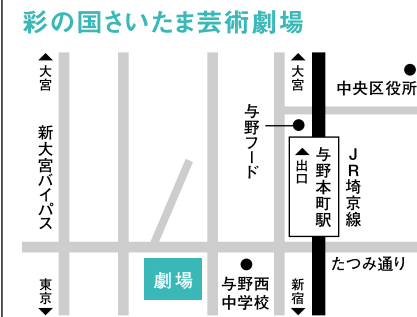
(株)テレビ埼玉ミュージック／日本データコム(株)

(株)パシフィックアートセンター／(株)ビルメン

武州ガス(株)／(株)松本商会／武蔵野銀行

森平舞台機構(株)／リズム時計工業(株)

(株)八木橋／(株)と野フードセンター



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

電車でのアクセス JR埼京線と与野本町駅(西口)下車 徒歩7分

または①番乗り場からバス

新宿から快速で27分、各駅停車で40分

大宮から快速で4分、各駅停車で6分(通勤快速は停車しません。)

駐車場 155台 最初の1時間無料 それ以降は300円/時間

※駐車台数に限りがあり、劇場周辺にも一般の駐車場はございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4

電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

上野駅から各駅停車で27分 大宮駅から各駅停車で8分

駐車場 39台(うち車イス専用駐車場2台) 300円/時間 高さ2mまで

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

(財)埼玉県芸術文化振興財団 メンバーズ特典

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「便利」で「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

年会費:2,000円

メンバーズ料金

財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

財団情報誌

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている、情報誌がお手元に届きます。

優先予約

一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。

プレオーダー

人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。※指定席の場合、お席は抽選になります。

レストランでの割引

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

ポイント制度

チケットを購入するとポイントが貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。※チケット購入金額10円につき1ポイント。1ポイント1円にて換算されます。

キャッシュレス

チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落になります。

チケットの安心無料送付

ご購入いただいたチケットは、セキュリティバックにてお届けいたします。

その他

ジョン・レノン・ミュージアム(TEL 048-601-0009)への入場料金が割引になります。

大人 1,500円→1,300円

高大生 1,000円→800円

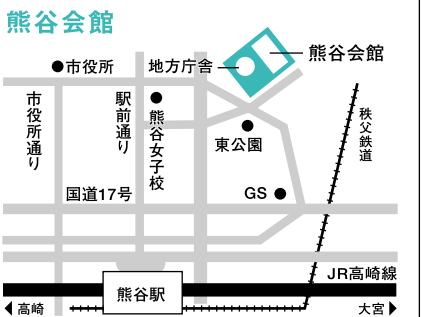
小中学生 500円→400円

表紙 アクラム・カーン+シディ・ラルビ・シェルクイ
「ゼロ度 zero degrees」 ©Tristram Kenton

裏表紙 さいたまゴールド・シアター ©山下恒徳

編集 鴨澤章子

発行日:2006年7月15日
禁断断転載
©(財)埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15.July 2006
All Rights Reserved
by Saitama Arts Foundation



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2

電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536

電車でのアクセス JR高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

大宮駅から37分

自動車でのアクセス 関越自動車道東松山インターより16Km

※無料駐車場あり。ただし、地方庁舎と合同の駐車場なので、催事によつては駐車できない場合もあります。ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



演技を終えた重本恵津子さんに、指導をつける蛭川幸雄。

47名の役者の卵たちの挑戦

さいたまゴールド・シアター始動!

SAITAMA GOLD THEATER



役柄にふさわしい座り方を、自らしてみせる蛭川幸雄。

3月に行われた「さいたまゴールド・シアター」のオーディションで、1,116名から選ばれたのは、当初の予定を大幅に上回る48名だった^(1名はその後辞退)。レッスンが始まったのは、ゴールデンウィーク真っ最中の5月1日。以降、週5日、午前も午後も、55歳から80歳までの新入生たちは、顔を輝かせて、レッスンに取り組んでいる。

4月21日、彩の国さいたま芸術劇場は熱気に包まれていた。1月に発表されて以来、予想を遥かに上回る反響を呼んでいた、「さいたまゴールド・シアター」の団員が決定。そのお披露目記者会見が催されたのだ。48名の団員たちは、どの顔も晴れがましそうであると同時に、「なぜ、私が」といったとまどいも隠せない。あまりにも多くの応募があったうえ、3月に3週間にわたって行われたオーディションで、上手に演技するほかの参加者を目の当たりにし、「合格するのは宝くじに当たるようなもの」と、半ばあきらめていた人も少なくない。そこへ飛び込んできた朗報に、自然と意気が上がる。

「昔からある程度の歳の人だけで劇団をつくりたかった。生活者として生きてきた思いが演技にのせられるのではないかという思いがあります。僕と一緒に走りましょう」

同劇場の芸術監督であり、「さいたまゴールド・シアター」の発案者である蛭川幸雄の、記者会見での言葉に深くうなづく団員たち。レッスンの開始は、ゴールドという名にふさわしく(?)、ゴールデンウィークを返上して、5月1日から始められることとなった。



記者会見時の模様。新聞・雑誌のほか、テレビ取材も数多く、世間の関心の高さが伺われた。

photo:山下恒徳 取材・文:鴨澤章子

“ありえたかもしれない自分”を探して

蛭川によるレッスン初日。団員たちにいきなり手渡されたのは、1冊の台本だった。『明日そこに花を挿そうよ』は'50年代の清水邦夫の作品だ。これは蛭川が演出家としてデビューした劇団現代人劇場で演出したこともあり、劇団青俳での初演では、自身も出演していたという、思い出深いもの。主役の男女は共にティーンエイジャーと若く、あえて年齢相応の作品は選ばなかった。「演技というのは、“ありえたかもしれない私”と出会おうとするものなんだよ」(蛭川)

だから、過ぎ去ってしまった年齢でも、かえって自分の経験を踏まえ演じることができるというのが、蛭川の狙い。ある程度年齢を重ねた人なら、誰でも、あの時あашていれば、という思いをどこかで抱えているものだ。それを役を演じることを通して生き直せる、としたら、どんなに素敵なことだろう。

しかし団員たちには厳しい現実が控えていた。次回までに覚えてくるページ数も発表されると共に、相手役も自分で探し、交渉することが課せられたのだ。「与えられるのを待っているだけではなく、自分で積極的に選ぶ。そのためには、本質を見るようになる。ここはカルチャーセンターではないのだから、そこから始めてもらいたい」(蛭川)

一見、厳しく映るこの方針、実は蛭川が思う最大限での相手を尊

重するやり方だ。普段、プロの役者たちと仕事をする場合は、こちらから役を割り当てるのが通常だが、人によっては蛭川より年上もいる団員たちの、長く人生を生きてきた目を信頼してもいいのだろう。

「初めから指示をすると、演出のクリエイションの中に、役者は生きようとするもので、それは避けたい」(蛭川)

団員たちは、早速、相手役探しにとりかかり、早くもすでにセリフあわせをしたり、レッスン後にも自主練習を始めるものも。

女性団員の中で最高齢の重本恵津子さん(80)は言う。「レッスン1日目、楽しかったです。とにかく、蛭川さんの最初のやり方がとても新鮮でよかった。いきなり台本を渡されましたけど、やっていけると思います」

47名の並々ならぬ思いがパワーに

蛭川の演出以外にも、各分野の一流の講師陣により、多彩で体系的なレッスンが組まれている。井上尊晶氏によりもうひとコマ演出のレッスンが持たれ、やまものり氏にはヴォイスを、桜井久直氏には身体の動かし方全般をムーブメントとして習うほか、広崎うらん氏はダンスを、花柳輔太郎氏は日本舞踊を担当している。これらのレッスンが、月曜から金曜までの週5日、午前と午後、1レッスンずつ行われている。その上、自主練習もしているのだから、体力的に大変なはずだが、団員たちはみな、日々を追うごとに元気になっていく。

「私はヘルパーをしていたので、腰痛を抱えていたのですけれど、そ

れがなくなりました」(団員の宮田道代さん・57)

「今朝も5時に起きて、公園で稽古してきました」(団員の葛西弘さん・75)

47名の団員たちはみな、並々ならぬ思いで「さいたまゴールド・シアター」に参加している。勤めを定年を前にやめてきたもの、住まいを埼玉県に移してきたもの……それぞれがそれぞれの事情を乗り越え、これを逃したら、もう二度と巡り合えないチャンスに、自分の今までの人生すべてを賭けている。記者会見のときに発言をした団員の一人、高階菖子さん(70)の言葉にもそれが滲む。

「『さいたまゴールド・シアター』の募集記事を見て、年齢制限がないことに、空が晴れたような、涼しい風が吹いたような感じを受けたんです。これまで自分のやりたいことを人生の中で何度も中断してきましたから、『さいたまゴールド・シアター』の活動を通して、今度こそ、今までの人生が無駄じゃなかったんだと思えるような人生にしたいと思います」

この熱き思いが切磋琢磨していく中で、化学反応がおき、更にとてつもないパワーが生まれたとしても何の不思議もない。

僕らはまだ進展していける

レッスン開始から3ヶ月後を目処に発表会を、1年後には公演が予定され、レッスンは現在も日々積み重ねられている。蜷川による演出レッスンでは、2週目からはすでに、二人一組で演技を披露する段階に入った。演技に対する評価はもちろん、アカデミックな演劇論から、具体的な演技指導、脚本の解析まで、一瞬たりとも気の抜けない充実した内容。蜷川自らが演技をしてみせたり、歩き方まで手取り足取り教える場面まで。中には、あの蜷川が、「よかった。実に高度です。大したもんです」と感嘆する組も。どの組も演出プランや舞台セットも自らで考え出したものだ。

「生き方の違いで演技は変わるの当然。羞恥心のあり方もそれぞれ違うわけだから。自分たちの経験という全財産を使わなきゃ」(蜷川)

今までの演劇経験や、人生を生きてきた中での癖など、直すべき課題を抱えている人に対しても、決してあきらめない。

「変わっていける可能性はまだある。何かを発見すると、僕は進展していける」(蜷川)

それはともすれば巨匠として安泰してしまう危険を抱えた蜷川自身が、欲していることでもある。周囲の人間から意見をされることの少ない蜷川にとって、演劇とは違う分野で経験を積み重ねた同世代の人々からの反応は、新鮮で貴重なものでもあるのだ。

こうした濃密な時間から何が生まれてくるのか。「壮大な実験」(蜷川)はまだ始まったばかりだが、早くも大いなる可能性を見せ始めている。



広崎うらん氏によるダンスの授業で。どの団員も真剣で、その表情は発射としている。



彩の国さいたま芸術劇場の大稽古場で、通常行われている授業。
蜷川幸雄の一言一言を聞き逃すまいと、みな、必死だ。

「さいたまゴールド・シアター」

団員紹介

『埼玉アーツシアター通信』では、今後6号にわたって、

47名の団員すべてをご紹介します。

役者を目指し、毎日、頑張っている団員にご注目。

団員のみなさんへの質問

.....
1.入団の動機 2.レッスン開始、1ヶ月後の感想
3.蜷川さんに一言。 4.来年の自分はどうなる？

大神 信(おおがみまこと)さん 70歳

70歳からの挑戦に、「子供たちから英雄視されている」という大神さん。

- 1.何のために生きているのか？ 生きてきたのか？ それを問い掛けるばかりの日々でした。募集要項を読んだ時、私の人生で神が見せてくれる最後の微笑みだろうと思いました。「生きている限り希望はある」(シラー作『メアリー・スチュアート』より)
- 2.予想通り芝居三昧の生活で充実した日々。今ほど自分の命を惜しむ気持ちを持ったことはない。世界が全く違ってしまいました。
- 3.お互いに残り少ない人生。人生は生きるに足る素晴らしいものに出来ることを演劇を通して表し、生きている限り希望はあると人間讃歌の舞台を後の世に置いてゆきましょう。
- 4.世阿弥の言葉、「時分の花」は咲かせ得なかったけれど、「真の花」はきっと咲かせていると思います。

加藤素子(かとうもとこ)さん 59歳

元高校教諭の加藤さんは、自分の退職と募集のタイミングの良さに「幸せ」を感じる日々。

- 1.都立高校に対する都のやり方に憤りとストレスが溜まり、一年早い退職を決め、今までとは違う人生を考えていた時、「さいたまゴールド・シアター」の募集記事に出会いました。心が躍り、興奮し、自分が求めていた道だと直感したからです。
- 2.心にも身体にも心地良い刺激があり、毎日ワクワクしています。素晴らしい講師の方々のレッスンを全身で受け止め、できるだけ多くのことを吸収したいと強く思っています。
- 3.去年ではなく、来年でもなく、今年この企画を発表して下さったことに感謝の気持ちでいっぱいです。このチャンスを生かせるよう頑張ります。
- 4.まったく想像が付きませんが、心身ともに若返っていると思います。

宇畑 稔(うはたみのる)さん 71歳

話をしているもいつも演技の話になる宇畑さん。今は蜷川が指摘した登場人物が擬態を演じているところを台本から発見するのに全力を傾ける。「隠れた部分をどう表現するか、それが大切だと思う」

- 1.もともと芝居は観るのが好き、演るのがもっと好き。募集には打てば響くように参加した永年の夢。
- 2.とても気持ちの良い時を過ごしています。だんだん激しくなることを大いに期待しています。
- 3.毎回、実践に基づいた貴重なお話、感謝していますが、若干長くなるのが……。
- 4.残されたわずかな時間で自分をどれだけ高めることが出来るか。かすかな光に輝いていると思います。

小川 喬也

(おがわとかや)さん 68歳

児童劇団などでプロとしてのキャリアがある小川さん。当時のお仲間は「その年して、よくやる」と言うが、実際のところ、注目の的。「葬式代に貯めていたお金を、『死ぬのは延ばしたから』と、この費用にあてています」

- 1.私は昨年の夏から二トでした。本物の二トさんは、自ら望んでそういう暮らしをされているのですが、私の場合は何もしない日々から、どうしても抜け出したかった。
- 2.本当に楽しい毎日です。もっと言えば、楽しすぎます。でも、人生良いことばかりではないと思います。心を引き締めて一年間の修行に励みたいと考えております。
- 3.オーディション応募の際、膝にハンデがあることをお伝えしました。そんな私を合格に下さったこと、心から心から感謝します。
- 4.どのような形にせよ、舞台上に立っていると信じております。



小淵 光世

(おぶちみつよ)さん 60歳

「自分なりに精一杯やったら、さらなる飛躍の為の次の目標を持たせてくださるので有難いです」と蜷川評。

- 1.子供が成長して家庭への責任と義務を果たし、これからはずっと抑えてきた夢に向かって打ち込みたいと思っていました。そんな私にとり募集の知らせは神様のご褒美。蜷川さんの舞台のファンだったので飛びつきました。
- 2.驚きとカルチャーショックの連続です。充実した内容のレッスンで学ぶことの喜びを実感しています。また、メンバーの方々の経歴、半生を伺うのが楽しみになりました。
- 3.チャンス را載き、感謝しています。レッスンを受けると、自分の中で何かが壊れる痛みと、逆に思い込みから解放される喜びがあります。
- 4.目の前の課題で精一杯なのと、日々膨らんでくる不安の中で、想像もつきません。でも、なんらかの形で舞台づくりに携わっていることができたらと願っています。

葛西 弘(かさいひろむ)さん 75歳

教員をしていた頃の教え子が、報道でこの活動を知り、「先生は昔から頑張り屋だったから」と電話してくれたのが、近年にない喜び。

- 1.演劇に多少の関心を寄せてはいましたが、「さいたまゴールド・シアター」公募とその中心が蜷川さんと知れば、休火山が一気に爆発したように、無我夢中で応募しました。
- 2.素晴らしい講師、素晴らしい環境、素晴らしい仲間、さらに行き届いた支援布陣。これほど恵まれた条件の中で懇切な指導を受けられる幸せを感じています。
- 3.蜷川さんだからこそ立ち上げられた。その中に一員として加えて頂けたこと、感謝あるのみです。
- 4.さいたまゴールド・シアターの一員として、楽しく、明るく、無欲に、ただ芝居の虫となって、自分なりの全力投入をしていると思います。

石川 佳代(いしかわかよ)さん 62歳

「蜷川さんの壮大な実験に面白がって加わっているという感じです」という石川さん。

- 1.横浜の財団で、演劇ワークショップやボイストレーニング等の企画をしておりました。本当は自分が参加したかったのです。昨夏、友人にサミュエル・ウルマンの詩「青春とは」の朗読を頼まれ、はまった1感です。
- 2.楽しいの一言、直前まで猛烈に働いていたのでくたびれていたはずが、好きなことをやっているせいか、すこぶる健康的です。せりふ覚えの悪さ、表現の難しさは高い壁です。
- 3.ど素人の私を探ってくださって有難うの気持ちでいっぱい。オーディションが日常の中の「ハレ」の日のつもりでした。戯曲を読み込んで、自分とは違う人格が「いつとき様みつく」感覚は面白いです。
- 4.脱落せずに一年間やり通すことが当面の目標。一座に加われたら嬉しいです。

大串 三和子(おおぐしみわこ)さん 72歳

「ダンパーカーに自転車がつかるつもりで」蜷川さんに向き合う日々。「蜷川さんは人間が大きくて、強さも広さもありますから」

- 1.若い時から演劇が大好きで役者になりたかったのですが何かと難しく、日本舞踏で舞台に立つのみでした。人生最後の機会に巡り合えた事を喜び、夢をかけて応募しました。
- 2.若い演劇志望者から恨まれそうな賢況な環境と指導者陣に恵まれて、感謝と頑張らなくちゃ申し訳立たないという思いで日々張り切っています。
- 3.機会を与えてくださって有難うございます。もう余り先がありません。あまり労わって下さっていると間に合いません。びしびしお願いします。そして決して私より先にダウンさせないで下さい。
- 4.ますます元気に演劇を模索していて、理解した事の一割くらいは表現できるようになれていたらいいと思います。



<http://www.saf.or.jp/>



CONTENTS

02 NINAGAWA 千の目 宮川彬良×蜷川幸雄

06 PICK UP コンテンポラリーダンスの最前線

オーストラリアン・ダンス・シアター『HELD』

アクリム・カーン+シディ・ラルビ・シェルカウイ『ゼロ度 zero degrees』

ヤン・ファーブル『わたしは血 JE SUIS SANG』

08 PICK UP 夏休みの子供プログラム

12 『タイタス・アンドロニカス』イギリス公演報告

14 PICK UP 仲道郁代 親子で楽しむクラシック

15 PICK UP 幸田浩子 ソプラノ・リサイタル

16 PICK UP ピアニスト100

17 EVENT INFORMATION

18 EVENT CALENDAR

20 PICK UP さいたまゴールド・シアター始動!

